

2018年度大学「総合人間科学」保健福祉学部カリキュラムマップ

			単位数		大学の学位授与の方針(DP)						
					必修	選択	DP1【知識・理解】	DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
全学共通科目	キリスト教教育	キリスト教学(旧約聖書)	2		◎						
		キリスト教学(新約聖書)	2		◎						
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎					○	
		キリスト教と文化		1	◎					○	
		キリスト教と現代		1	◎					○	
	初年次教育	初年次セミナーI	1		◎					○	
		初年次セミナーII	1		◎				○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎						
		チームスポーツ		1	○					○	
		生涯スポーツ		1	○					○	
		女性史		1	○						
		共生社会とジェンダー		1	○						
保健福祉学部共通科目	基礎教養	保健福祉学入門	1		◎					○	○
		文学	2		◎						
		日本国憲法	2		◎						
		生物と生命科学	2		◎						
		数学リテラシー	1		◎						
		こころと人間	2		◎						
		経済学入門	2		◎						
		生活の中の化学	2		◎						
		人生と哲学	2		◎						
		法学	2		◎						
	アカデミックスキル	比較文化と国際理解	2		◎					○	
		基礎英語	1		◎						
		英会話入門	1		◎						○
		実用英語コミュニケーション	1		◎						○
		中国語入門	1		◎						○
		中国語発展	1		◎						○
		ハングル入門	1		◎						○
		ハングル発展	1		◎						○
		日本語表現法	1		◎						○
		メディアリテラシー	1		◎						○
	地域創生	情報処理基礎	1		◎						○
		情報処理演習	1		◎						○
		情報の理解と表現	1		◎						○
		北九州の過去・現在・未来	1		◎						
		北九州の技と文化	1		◎						
	キャリア形成支援	ボランティア概論	1		◎						
		高齢者支援学I	1		○				○	○	
		高齢者支援学II	1		○		○		○	○	
	キャリア形成支援	キャリア開発	2		◎						
		ライフイベントとキャリア支援	1		○					○	
		実践キャリアプランニング	1		○					○	

2018年度大学「総合人間科学」人文学部カリキュラムマップ

			単位数		大学の学位授与の方針(DP)						
					必修	選択	DP1【知識・理解】	DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
全学共通科目	キリスト教教育	キリスト教学(旧約聖書)	2		◎						
		キリスト教学(新約聖書)	2		◎						
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎					○	
		キリスト教と文化		1	◎					○	
		キリスト教と現代		1	◎					○	
	初年次教育	初年次セミナーI	1		◎					○	
		初年次セミナーII	1		◎				○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎						
		チームスポーツ		1	○					○	
		生涯スポーツ		1	○					○	
		女性史		1	○						
		共生社会とジェンダー		1	○						
人文学部共通科目	基礎教養	人文学入門	1		◎						○
		文学	2		◎						
		日本国憲法	2		◎						
		生物と生命科学	2		◎						
		数学リテラシー	1		◎						
		こころと人間	2		◎						
		経済学入門	2		◎						
		生活の中の化学	2		◎						
		人生と哲学	2		◎						
		法学	2		◎						
	アカデミックスキル	中国語入門	1		◎						○
		中国語発展	1		◎						○
		ハングル入門	1		◎						○
		ハングル発展	1		◎						○
		フランス語入門	1		◎						○
		フランス語発展	1		◎						○
		日本語表現法	1		◎						○
		メディアリテラシー	1		◎						○
	地域創生	情報処理基礎	1		◎						○
		情報処理演習	1		◎						○
		情報の理解と表現	1		◎						○
		北九州の過去・現在・未来	1		◎						
	キャリア形成支援	地域プロジェクト	1		○				○	○	
		北九州の技と文化	1		○						
		ボランティア概論	1		○						
		キャリア開発	2		◎						
		ライフイベントとキャリア支援	1		○					○	
		実践キャリアプランニング	1		○					○	

看護学科

学位授与の方針 (DP)

看護学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（看護学）の学位を授与します。

DP 1 【知識・理解】

- 1-1) 看護の対象である人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している。
- 1-2) 看護実践に必要な基本的な知識を修得している。

DP 2 【思考・判断】

- 2-1) 健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。

DP 3 【関心・意欲】

- 3-1) 自立した女性として、生涯を通じて社会貢献しようとする意欲をもっている。
- 3-2) 健康支援に関わる人々と協働・連携し、生活の質を維持・向上させようとする意欲をもっている。

DP 4 【態度】

- 4-1) 看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
- 4-2) 根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。
- 4-3) 社会の変化を捉え、自ら学び続ける姿勢を身につけている。

DP 5 【技能・表現】

- 5-1) 看護の対象と良好な関係を築くことができる。
- 5-2) 地域や社会において看護の対象に基本的な看護を実践できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

【専門教育科目】

1. 看護学科の教育課程は、看護実践者の育成を目的として、総合人間科学と専門教育の「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」「看護実践の応用」「看護実践の統合」「看護の発展」で構成する。
2. 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」では、看護の対象である人々を理解し、看護を実践するための基本的知識・技術の修得および態度を育成するとともに、看護に関わる倫理観を養う。
3. 「看護実践の応用」では、あらゆるライフステージ・健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に看護を実践できる能力を育成する。
4. 「看護実践の統合」では、これまでの段階的・系統的な知識を統合し、社会の変化に対応する力を養い、健康支援に関わる人々と連携・協働する能力を育成する。
5. 「看護の発展」では、地域包括ケアおよび看護キャリア形成と看護実践を柱におく。地域包括ケアでは、地域社会の人々が望む暮らしに健康の側面から柔軟に対応できる能力を養う。また、看護キャリア形成と看護実践では、女性として自立し、生涯を通して社会貢献する態度を育成する。
6. 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（看護）を取得できる。

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2											
			1年次		2年次		3年次		4年次																						
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																					
看護を学ぶための基礎	看護形態機能学 I	2		4								◎	○																		
	看護形態機能学 II	2			4							◎	○																		
	臨床栄養学	2				2						◎	○		○																
	感染と免疫	2		3								◎	○																		
	疾病学総論	1			2							◎	○																		
	疾病学各論 I	2				4						◎	○																		
	疾病学各論 II	1				2						◎	○																		
	看護のための臨床検査	1				2						◎	○																		
	薬理学	2			2							◎																			
	保健統計学	2			2							◎	○																		
	社会保障概説	2			2						◎		○																		
	家族と健康	2				2						◎	○																		
	対人関係論	1		2								○	◎	○																	
	発達心理学	1				2						○		○																	
	臨床健康心理学		1				1					○		○																	
	医療と倫理		1		1							○					○														
	健康教育論	1				1						○	○																		
一	看護学概論	2		2								○	○		○	○	○														
	看護理論		1				1					○	○																		
	看護倫理	1				1						○	○				○														

科 目			必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								D P 1 - 1	D P 1 - 2	D P 2 - 1	D P 3 - 1	D P 3 - 2	D P 4 - 1	D P 4 - 2	D P 4 - 3	D P 5 - 1	D P 5 - 2												
					1年次		2年次		3年次		4年次																							
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																						
看護実践の基礎	看護技術論	1		2									○	○			○	○	○	○	○	○												
	生活援助技術論演習	3			6									○	○			○	○															
	診療関連技術論演習	1				2							○	○				○	○															
	フィジカルアセスメント技術演習	1			2								○	○						○														
	看護過程論	2				4							○	○					○	○														
	基礎看護学実習 I	1			実習								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	基礎看護学実習 II	2			実習								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	公衆衛生看護学概論	2		2									○	○			○																	
看護実践の応用	小児看護学概論	1				1							○	○																				
	小児看護方法論	2					2						○	○	○		○			○														
	小児看護学演習	1					2						○	○						○														
	小児看護学実習	2						実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	母性看護学概論	1			1								○	○																				
	母性看護方法論	2				2							○	○	○		○																	
	母性看護学演習	1				2							○	○					○	○														
	母性看護学実習	2						実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
看護実践の応用	成人看護学概論	1				1							○	○	○																			
	成人慢性期看護方法論	2					2						○	○	○		○																	
	成人急性期看護方法論	2					2						○	○			○																	
	成人看護学演習	2						4					○	○	○	○	○	○	○															
	成人慢性期看護学実習	3							実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	成人急性期看護学実習	3							実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	老年看護学概論	1				1							○	○			○		○	○														
	老年看護方法論	2					2						○	○			○		○															
	老年看護学演習	1					2						○	○			○		○		○													
	老年看護学実習 I	2						実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	老年看護学実習 II	1						実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	精神看護学概論	1				1							○	○																				
	精神看護方法論	2				2							○	○			○		○															
	精神看護学演習	1					2						○	○			○		○		○		○											
	精神看護学実習	2						実習	実習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
看護実践の統合	在宅看護学	2					2						○	○			○																	
	在宅看護学演習	1					2						○	○			○		○		○													
	在宅看護学実習	3						実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	看護マネジメント総論	1				1							○	○			○		○															
	看護研究	1					2						○	○							○													
	看護研究演習		3						2	4			○	○							○	○												
	看護総合演習	1							1	1			○	○	○		○		○	○	○	○												
	看護総合実習	2							実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										

科 目			必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								D P 1 - 1	D P 1 - 2	D P 2 - 1	D P 3 - 1	D P 3 - 2	D P 4 - 1	D P 4 - 2	D P 4 - 3	D P 5 - 1	D P 5 - 2												
					1年次		2年次		3年次		4年次																							
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																						
		看護学特論		1								1					◎					○												
看護の発展	地域包括ケア	地域連携協働支援論	1				1						○			○		○																
		地域生活支援論	1					2					○		○		○					○												
		緩和・がん看護学	1					2					○	◎	○	○																		
		NPO論	1	1								1		○		○						○												
	看護キャリア形成と看護実践	看護キャリア形成論	1				1								○			○		○		○												
		災害看護学	1									1		○	○		○	○	○		○													
		国際保健論		1			1						○	○		○																		
公衆衛生看護関係科目	疫学	2	2			2							○	○																				
	公衆衛生看護方法論 I	2	2			2							○	○			○		○		○													
	公衆衛生看護方法論 II	2	2			2							○			○			○		○													
	対象別公衆衛生看護活動論 I	1	1			1							○	○		○		○		○														
	対象別公衆衛生看護活動論 II	2	2			2							○			○		○		○														
	保健医療福祉行政と政策	1	1				1						○	○		○																		
	公衆衛生看護活動演習	2										4		○		○		○	○	○	○	○												
	公衆衛生看護管理論	2										2		○		○		○	○	○	○	○												
	公衆衛生看護学実習	5								実習	実習		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								
養護に関する科目	学校保健	2	2			2							○	○		○																		
	養護概説	2	2			2							○	○		○						○												
	健康相談	2	2			2							○	○							○													
													◎	1	34	22	3	4	0	6	0	1	11											
													○	10	22	51	21	40	29	29	23	11	0											
													計	11	56	73	24	44	29	35	23	12	11											

看護学科

学位授与の方針 (D.P.)

D.P.1 【知識・理解】

1-1) 看護の対象である人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している。

1-2) 看護実践に必要な基本的な知識を修得している。

D.P.2 【患者・判断】

2-1) 健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に患者・判断できる。

D.P.3 【関心・意欲】

3-1) 自立した女性として、生涯を通じて社会貢献しようとする意欲を持っている。

3-2) 健康支援に関わる人々と協働・連携し、生活の質を維持・向上させようとする意欲を持っている。

D.P.4 【態度】

4-1) 看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。

4-2) 根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけています。

4-3) 社会の変化を捉え、自ら学び続ける姿勢を身につけています。

D.P.5 【技能・表現】

5-1) 看護の対象と良好な関係を築くことができる。

5-2) 地域や社会において看護の対象に基本的な看護を実践できる。

教育課程編成・実施の方針 (C.P.)

1. 看護学科カリキュラムは、看護実践者の育成を目的として、教養教育と専門教育科目「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」「看護実践の応用」「看護実践の統合」「看護の発展」で構成する。

2. 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」では、看護の対象である人々を理解し、看護を実践するための基本的知識・技術の修得及び態度を育成するとともに、看護に関わる倫理観を養う。

3. 「看護実践の応用」では、あらゆるライフステージ・健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に看護を実践できる能力を育成する。

4. 「看護実践の統合」では、これまでの段階的・系統的な知識を統合し、社会の変化に対応する力を養い、健康支援に関する人々と連携・協働する能力を育成する。

5. 「看護の発展」では、地域包括ケアと看護キャリア形成と看護実践を柱におく。地域包括ケアでは、地域社会の人々が望む暮らしに健康の側面から柔軟に対応できる能力を養う。また、看護キャリア形成と看護実践では、女性として自立し、生涯を通して社会貢献する態度を育成する。

6. 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状(看護)を取得できる。

科 目	選 択 一 高 看 護 種 一 種 免	開講時期・週授業時間数										到達目標	D.P. 1-1	D.P. 1-2	D.P. 2-1	D.P. 3-1	D.P. 3-2	D.P. 4-1	D.P. 4-2	D.P. 4-3	D.P. 5-1	D.P. 5-2													
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次																											
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																										
教職に 関す る科 目	教職概論	2	2	2		2				1. 教職の意義や教師の職務内容、社会の責任などについて説明することができる。 2. 専門職としての教師に求められる資質、能力について説明することができる。 3. 教職の歴史、現状、現職研修の動向について説明することができる。 4. 教職をめぐる改革動向について説明することができる。	○																								
	教育原理	2	2	2	2					1. 教育の理念や思想、原理などについて基本的な事項を説明することができる。 2. 学校教育の歴史や機能について基本的な事項を説明することができる。 3. 現代教育の課題や改革動向について説明することができる。	○																								
	教育心理学	2	2	2		2				・学習のメカニズム（どのように人は発達して、学習し、考え、記憶するのか）の過程を説明できる ・学習活動における個体の発達過程や動機づけのタイプを説明できる ・児童・生徒との関わる方のタイプや人格発達の過程を説明できる ・授業形態や評価法を説明できる	○		○			○	○		○																
	教育社会学	2	2	2			2			1. 子どもの発達を社会的・文化的条件から理解することができる。 2. 現代社会における子どもの発達に関するトピックスを学び、概要を説明することができる。 3. 子どもの発達を説明する社会学の基礎的概念を活用することができる。	○		○																						
	教育課程論	2	2	2			2			1. 教育課程の意義、編成の原理と方法などの基本的事項について説明することができる。 2. 学習指導要領の内容と特徴について説明することができる。 3. 教育課程改革論など教育課程の現状や課題について説明することができる。	○																								
	特別活動及び 総合的な学習の時間の指導法	2	2	2				2		1. 特別活動の特質や課題について理解して説明することができる。 2. 特別活動における特別活動の位置づけや内容を理解して説明することができる。 3. 学校・子どもの実態と特別活動における教師の指導性について理解して説明することができる。 4. 特別活動における実践記録を分析することができる。	○		○	○	○																				
	特別支援教育論	1	1	1			1			①特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解している。 ②特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する学校制度を含む教育課程や支援の方法を理解している。 ③特別教育の二つのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。	○	○	○																						
	教育方法論	2	2	2			2			1. 教育実践の原理や課題などについて説明することができる。 2. 学習の原理や方法を理解し、学習指導案を書くことができる。 3. 実践記録の分析方法を身につけ、分析することができる。 4. 授業改革の課題と動向について説明することができる。	○																								
	看護教科教育法 I	2	2				2			1. 看護教育制度及び高等学校看護科教育の目標および教育課程について説明することができる。 2. 看護教育の方法と学習理論について説明できる。 3. 教育指導案の研究開発のあり方について説明できる。 4. 看護教育の授業設計方法について説明できる。 5. 看護教育の授業を評価する方法について説明できる。 6. 模擬授業を実践し、客観的に評価できる。	○	○	○					○																	
	看護教科教育法 II	2	2				← →			1. 高等学校看護科の教育目標および教育課程を説明できる。 2. 看護教育における「実習」の学習方法の特徴について説明できる。 3. 講義と実習の一体的な指導による授業の設計方法及び評価について説明できる。 4. 対地実習における指導計画・指導方法について説明できる。 5. 模擬授業を実践し、客観的に評価できる。 6. 看護教育の授業研究の必要性について説明できる。	○	○	○					○																	
	学校保健教育法	2		2			2			1. 学校における保健教育の意義と養護教諭の役割、養護教諭と保健教育の関わりについて説明できる。 2. 学校保健教育の方法と学習理論について説明できる。 3. 教育指導要領における保健学習と教育課程について説明できる 4. 保健教育における授業設計の方法について説明できる。 5. 保健教育に関する基礎知識を習得し、模擬授業の形で実践することができる。	○	○	○					○																	
	道德教育の理論と実践	2		2	2					1. 道徳の実践にかかる課題を理解することができる。 2. 道徳教育における「道徳教育の役割」について説明することができる。 3. 学習指導案の基本的な構造について説明することができる。 4. 道徳の授業実践における基本的な知識を習得し、模擬授業の形で実践することができる。	○		○	○				○																	
	生徒・進路指導論	2	2			2				1. 生徒指導の意義、内容を説明できる。 2. 子ども理解の内容、方法を説明できる。 3. 問題行動・トラブル等への対応ができる。 4. 進路指導・キャリア教育の意義、内容を説明できる。	○			○				○																	
	生徒指導論	2	2			2				1. 生徒指導の意義、内容を説明できる。 2. 子ども理解の内容、方法を説明できる。 3. 問題行動・トラブル等への対応ができる。	○			○																					
	教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2		2				1. 生徒と教員間のコミュニケーションについて理解を深め、カウンセリングの技術を使うことができる。 2. 学校内外で発生する子どもに関する社会的問題について理解を深めることができる。 3. 子どもの問題に対して具体的な援助計画を立てられるようになる。	○		○		○			○																	
	教育実習事前事後指導	1	1	1			← →			1. 教育実習に臨む上で必要な知識及び技術を習得することができる。 2. 学校教育の現場で実習する上で、留意すべき事項を理解し、必要な物心両面の準備をおこなうことができる。 3. 実習を通じて体験した事項や課題について学生相互間で意見交換をおこなうことができる。 4. 教育実習を通して修得した事項や課題を整理することができる。	○	○	○					○																	
	養護実習事前事後指導	1	1	1			← →			1. 教育実習に臨む上で必要な知識及び技術を習得することができる。 2. 学校教育の現場で実習する上で、留意すべき事項を理解し、必要な物心両面の準備をおこなうことができる。 3. 実習を通じて体験した事項や課題について学生相互間で意見交換をおこなうことができる。 4. 教育実習を通して修得した事項や課題を整理することができる。	○	○	○					○																	
	教育実習 I	2	2				← →			1. これまで履修した教職科目及び専門科目等の知識及び理論に基づいて、授業を実践できる。 2. 教職教科の教師及び生徒との交流を通して、望ましい教師の資質及び能力の向上を図ることができる。 3. 教育における研究課題を発見し、課題解決に向けた取り組みについて考えることができる。	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○													
	養護実習	4		4			← →			1. 教育課程における養護教諭の役割について理解することができる。 2. 実習実施に応じて実習計画を立案し、実践することができる。 3. 教育に関する実践的・研究的能力を態度を身につけることができる。 4. 実習を通じて実践する実践的ないしは研究的な項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保育活動全体の概要を把握できる。	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○										
	教職実践演習(中・高)	2	2				2			1. 教職課程基づいた教育活動を展開することができる。 2. 授業の計画・実施・評価に関する知識と実践力を伸ばすことができる。 3. 教育として自律的な成長に必要なリソースを探り活用することができる。	○		○	○	○			○																	
	教職実践演習(養護教諭)	2		2			2			1. 教職課程基づいた教育活動を展開する																									

福祉学科

学位授与の方針 (DP)

- DP 1 [知識・理解]
 1・1) 需要を満たすもの、社会を多面的に捉える視点と知識を身につけている。
 1・2) 対人援助に必要な基礎的知識を修得している。

- DP 2 [思考・判断]
 2・1) 個人や社会の福祉的課題について、的確に把握し、支援方法を検討できる。
 2・2) 対人援助職としての倫理的判断ができる。

- DP 3 [情心・意欲]
 3・1) 人びとの心のちや生活について、さらに社会の福祉的課題について関心を持つ。
 3・2) 課題解決に向けた創造的な支援とは何かを探求しようとする意欲がある。

- DP 4 [態度]
 4・1) 社会の一員としての自覚を持ち、責任を持って行動できる。
 4・2) 他人との異なる立場や考え方を理解し、協力することができる。
 4・3) 自らを成長させための課題を自覚し、自己研鑽に努めている。

- DP 5 [技能・表現]
 5・1) 他者と関わる上で必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。
 5・2) 対人援助職としての専門的なスキルを身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

1. 福祉は、福祉・養護教諭コースと子ども家庭福祉コースで編成される。

2. 各コースとも社会福祉士国家試験受験資格を基本として、福祉・養護教諭コースでは、同時に精神保健福祉士国家試験受験資格、養護教諭一種免許状のいずれか1つを取得することができる。子ども家庭福祉コースでは、同時に保育士資格が取得できる。

3. 福祉学科カリキュラムは、教養科目を基盤として専門教科科目、「福祉基礎科目」「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育学科科目」「専門研究科目」と教職に関する科目で構成する。

4. 「福祉基礎科目」では、専門的学習の準備として基礎的な対人援助のイメージを確立し、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士に必要な学習スキルとコミュニケーションスキルを獲得する。

5. 「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」及び教職に関する科目では、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士として必要な専門的知識と理論及び技術の修得を目指すとともに、専門としての態度を育成し倫理観を養う。

6. 「専門研究科目」は、学びの集大成として位置づけ、3年次、4年次と継続して開講し、自らの課題を設定し探求する姿勢を身につけるとともに、主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。

科 目	必 修	選 択	開講時期・週回授業時間数												到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 2-2	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2								
			1年次			2年次			3年次			4年次																						
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期																				
福 祉 基 礎 科 目	ヒューマンサービス基礎演習	1	2																			○	○	○	◎									
	基礎実習	2	2	2																		◎	◎	◎	○	○								
	福祉入門	2	2													1. 福祉を学ぶ意義について理解できる。 2. 福祉への興味・関心を高め、自ら学びを深めることができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
社会 福 祉	社会福祉の原理と政策 I	2						2								1. 社会福祉の原理を巡る思想と理論を理解できる。 2. 社会福祉的展開と理論を踏まえ、歐米との比較を通してその特性を理解できる。 3. 社会問題と社会構造の関係から、現代の社会問題について理解できる。	◎	◎	○	○	○	○												
	社会福祉の原理と政策 II	2						2								1. 福祉政策の意義や原理を理解し、人々との生産ニーズと福祉政策の関係を理解できる。 2. 福祉政策の開発施策や包括的支援について理解できる。 3. 福祉サービスの供給と利用の過程について理解できる。 4. 國際比較から、日本の福祉政策の特性について理解できる。	◎	◎	○	○	○	○												
	社会学と社会システム	2		2												1. 現代社会の特徴を理解することができる。 2. 生活の多様性について理解することができる。 3. 人との会話について理解することができる。 4. 社会問題とその背景について理解することができる。	◎		○	○														
	社会福祉調査の基礎	2						2								1. 社会福祉調査の意義と目的について理解することができる。 2. 社会福祉調査と社会問題の歴史的関係について理解することができる。 3. 社会福祉調査の原理と理論や方法を理解することができる。 4. 調査の方法及び手順について適切に理解することができる。 5. 質的研究の方法及び調査結果について適切に理解することができる。 6. ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解することができる。	◎		○	○														
	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	2													1. 社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。 2. 相談援助の概念と範囲について説明できる。 3. 相談援助の信念と権利擁護の意義と範囲について説明できる。 4. 相談援助に係る専門職と専門倫理について説明できる。	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○									
	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2		2												1. 相談援助のための接客技術について説明できる。 2. 機関エントをもとにした相談援助の展開過程について説明できる。 3. 組織的接客におけるためさくと接助間接の形成について説明できる。 3. 相談援助における接助間接形態上に生じる問題について考察することができる。	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○									
	ソーシャルワークの理論と方法 I	2			2											1. 相談援助における人と環境との交釈作用に関する理論について説明できる。 2. 相談援助の過程とそれを通じた接客技術について説明できる。 3. 相談援助におけるためさくと接助間接の形成について説明できる。 4. 相談援助における接助間接形態上に生じる問題について考察することができる。	◎		○	○														
	ソーシャルワークの理論と方法 II	2				2										1. 相談援助のための接客技術について説明できる。 2. クライエントを中心とした相談援助の展開過程について説明できる。 3. ソーシャルワーカーが関わる社会問題を理解し、ソーシャルワーカーの役割について考察することができる。	◎																	
	ソーシャルワークの理論と方法（専門） I	2					2									1. ソーシャルワーカーにおける接助間接の形成やニーズの振り起こしを行うための方法について理解し、説明できる。 2. ソーシャルワーカーにおける社会資源の活用・調整・開発について理解し、説明できる。 3. オットワーカーの形成について理解し、説明できる。	○	○	○	○	○	○												
	ソーシャルワークの理論と方法（専門） II	2					2									1. 総合的方法から個別的方法を用いて支援する方法について説明できる。 2. 相談援助における個別例析の意義や方法について説明できる。 3. 相談援助の操作を通じて、多様化・複雑化する課題への対応と支援の方法を理解する。 4. カクアントラス・ネゴシエーション・ファシリテーションの意義や方法について理解し説明できる。	○	○	○	○	○	○												
	地域福祉と包括的支援体制 I	2				2										1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体性の概念を理解する。 3. 地域福祉を推進するため、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○									
	地域福祉と包括的支援体制 II	2					2									1. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 2. 包括的支援体制の考え方と多職種及び多機関連携の意義と実際について理解する。 3. 福祉課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○									
	福祉サービスの組織と経営	2					2									1. ソーシャルワーカーにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解し、説明できる。 2. 公立福祉士が求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法を理解し、説明できる。 3. 福祉サービスの組織と運営について、基礎理論、労働者の権利等について理解し、説明できる。 4. 福祉サービスに求められる福祉人材マネジメントについて理解し、説明できる。	○	○	○	○														
	社会保障 I	2			2											1. 社会保障の定義と特徴、取り扱い・社会機関について理解できる。 2. 社会保障制度と民間保険制度・社会扶助制度との関係について説明できる。 3. 医療保険・介護保険・社会扶助・社会福祉の制度の目的・対象・給付内容・財源構成について説明できる。	○	○	○															
	社会保障 II	2				2										1. 健康保険・雇用保険・労災保険の制度の目的・対象・給付内容・財源構成について説明できる。 2. 社会保険制度の歴史と変遷、制度の発展過程について説明できる。 3. 社会保険の行政に対する理解できる。 4. 少子高齢化社会に対する社会保険制度の課題を認識し、その課題について説明できる。	○	○	○															
	高齢者福祉	2				2										1. 高齢者の概念と特性、高齢者とその家族の生活これをを取り巻く社会環境について理解し、説明できる。 2. 高齢者福祉の歴史と変遷、制度の発展過程について理解できる。 3. 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解し、説明できる。 4. 高齢者に対する社会福祉士としての適切な支援について理解できる。	○	○	○	○	○	○												
	障害者福祉	2					2									1. 障害の概念と特性、高齢者とその家族の生活これを取り巻く社会環境について理解し、説明できる。 2. 障害者福祉の歴史と変遷、制度の発展過程について理解できる。 3. 障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解し、説明できる。 4. 障害者に対する社会福祉士としての適切な支援について理解できる。	○	○	○	○														

科 目	必 修 技	開講時期・選択授業時間数								到達目標																			
		1年次 前期		1年次 後期		2年次 前期		2年次 後期		3年次 前期		3年次 後期		4年次 前期		4年次 後期		D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 2-2	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後												
福 祉 専 門 科 目	児童・家庭福祉	2			2														◎	◎			○						
	貧困に対する支援	2						2											○	○			○						
	保健医療と福祉	2				2													◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
	権利擁護を支える法制度	2							2										◎	◎									
	刑事司法と福祉	2								2									◎	◎			○						
	介護技術演習	2	2																○									◎	◎
	ファミリーソーシャルワーク論	2							2										○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
	スクールソーシャルワーク論	2							2										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク演習	1		2															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	1		2															◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	1			2														◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	1				2													◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	1					2												◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2			→	→													◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4					2	2											◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	1			→	→													◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4			→	→													◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	精神保健福祉制度論	2				2													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	精神障害リハビリテーション論	2					2												◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	精神保健福祉の原理Ⅰ	2				2													◎	◎			○	○	○	○	○	○	○
	精神保健福祉の原理Ⅱ	2				2													◎	◎			○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）A	2					2												◎	◎			○	○	○	○	○	○	○

科 目	必 修 技	開講時期・週授業時間数								到達目標																			
		1年次 前期		1年次 後期		2年次 前期		2年次 後期		3年次 前期		3年次 後期		4年次 前期		4年次 後期		D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 2-2	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
精神保健福祉関係科目	ソーシャルワークの理論と方法(専門) B	2						2										◎	◎		○	○	○	○	○				
	精神医学・精神医療	4				4												◎	◎			○	○	○	○				
	ソーシャルワーク演習(専門) A	1				2												○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ソーシャルワーク演習(専門) B	1				↔	→											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ソーシャルワーク演習(専門) C	1						↔	→									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ソーシャルワーク実習指導A	2						↔	→									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ソーシャルワーク実習指導B	4						2										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ソーシャルワーク実習A	2						↔	→									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ソーシャルワーク実習B	2						↔	→									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	精神障害者地域生活支援論	2						2										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
専門教育科目	心理学と心理的支援 I	2	2															◎					○						
	心理学と心理的支援 II	2	2															◎					○						
	認知行動療法基礎演習	1			2													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	発達アセスメント演習	1					2											◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	高齢者臨床心理演習	1					2											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	発達心理学 I	2	2															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	発達心理学 II	2			2													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	発達臨床心理学	2					2											◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	発達臨床心理学演習	2					2											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	障害者心理学	2					2											◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	臨床心理学概論	2	2															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	カウンセリング論	2			2													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	社会心理学	2						2										◎				○							
	家族心理学演習	2							2									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	カウンセリング演習	1						2										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	健康臨床心理学	2						2										◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	スクールカウンセリング論	2						2										◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

科 目	必 修 技	開講時期・選択授業時間数								到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 2-2	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2									
		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期																					
保健・医療関係科目	医学概論	4			4					1. 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解できる。 2. 健康・疾病的発現・予防・対応について理解できる。 3. 人の心身の成長過程について理解できる。 4. 疾患と障害の成り立ち及び発達過程について理解できる。 5. 公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための策を理解できる。	◎				○															
	微生物学	2	2							1. 個々の病原微生物の性状(感染源・感染経路・病原因子・病原・臨床像)を説明できる。 2. 感染および免疫のメカニズムを理解し、説明できる。 3. 感染症を予防するための方針を分類について説明できる。 4. 生体の免疫現象について理解し説明できる。	◎																			
	栄養学	2			2					1) 痛みに従事する立場から、栄養について学ぶことの意義を説明できる。 2) 痛みに従事する立場から、どのような養食指導を実践すべきかを理解できる 3) 学年期、思春期、青年期の生活習慣と食行動への問題点を説明できる。 3) 飲食や栄養に関する業務がある医師、看護師、保健師、營養士、栄養士などと一緒に福祉の立場から健康や栄養改善のために協力すべき必要性を説明できる。	◎				○															
	生理学	2			2					1. 球体学科の専門分野と関連が深い、神経系の働きについての基礎的事項を説明できる。 2. 対象を認識するための感覚器の働き、中枢での情報の統合、運動神経による骨格筋の働きについて、基本的な説明ができるようになる。 3. 人間の生命維持のため必要な免疫細胞の働き、血流循環、呼吸、尿生成などの仕組みについて説明できる。	◎																			
	解剖学	2	2							1. 人体構造を学ぶための共通の言葉、解剖用語を理解し、説明できる。 2. 体表から内部の様々な器官をもう、いかに機能的に配置されているかを理解し、説明できる。 3. 人体を構成する細胞、組織、器官の多様性が一個の受精卵から始まるところを理解し、説明できる。 4. 各器官系がそれぞれどのような働きを持っていますか、他の器官、器官系との関連で理解し、説明できる。 5. 人間の成長過程における特徴を発生、成長、発育、加齢ならびに機能と関連づけて理解し、説明できる。 6. ヒトの健康、疾病などを理解する上での基礎知識を修得できる。	◎																			
	運動处方論	2				2				1) 健康や体力を保持・増進する上で運動の重要性を説明できる 2) 発育・発達に応じた遊びと運動を作成できる 3) 高齢者の自立を保つ運動と計画できる 4) 正常で健全な妊娠・出産のための運動計画できる	◎	◎	◎																	
	学校保健	2		2						1. 学校保健活動の全体像について理解できる。 2. 今後の教育目標に沿って学校保健の役割について理解できる。 3. 学校保健安全法を中心に規範について理解できる。 4. 見守・在籍等の健康課題と学校教育目標に沿う保健室経営面を立案し、運営方法について説明できる。 5. 病児発達における身体活動の効果やその進め方について理解できる。 6. 病児診断・懸念症・その予後の機会について理解できる。 7. 学校安全、学校経営(安全管理)、生徒教育、エイズ教育の進め方について理解できる。 8. 学校保健活動の推進を図る保健主事・養護教諭の職務内容について理解できる。 9. 保健学習・保健指導の内容と進め方について理解できる。	◎	○	○		○	○	○													
	養護概説	2		2						1. 子どもの発育・癡呆・社会環境の視点から養護教諭の歴史と免許法を理解し、職務と専門性について説明できる。 2. 見守・在籍等の健康課題と学校教育目標に沿う保健室経営面を立案し、運営方法について説明できる。 3. 児童発達支援の実施と評議について説明できる。 4. 病児診断・懸念症・その予後の機会について理解できる。 5. 病児の安全管理と対応について説明できる。 6. 組織的活動の意義と方法を理解し、学校内外の関係者の連携の方法について説明できる。	◎	○	○		○	○	○													
	地域保健学Ⅰ	2				2				1. 地域の特性と地場保健の特徴と実践方法を理解できる。 2. 地域保健学の特徴と実践方法における課題について説明できる。 3. 地域保健の実施と評議について説明できる。 4. 病児診断・懸念症の実施と評議について説明できる。	◎	○	○		○	○	○													
	地域保健学Ⅱ	2				2				1. 日本における現代社会の健康問題を理解し、保健・医療の動向について説明できる。 2. 子どもの健康問題と問題解決の実践方法のポイントを説明できる。 (1)諸問題の考え方と切り方(根拠、受容、共同アセスメント、対応) (2)注目したい子どもの現象と対応 (3)問題解決の実践方法の特徴(対象・場面・方法)について ・養護教諭の基点から説明できる ・事例分析・ロールプレイを通じて、健康相談における養護教諭の具体的な対応を説明できる。 5. 健康相談におけるアセスメント・危機介入(対応介入)・評価等のプロセスなどを説明できる。 6. 养護教諭が行う実践研究の意義と進め方について説明できる。	◎	○	○		○	○	○													
看護学	看護学	4		4						1. 人間の理解をめざし、看護の視点から健の考え方を説明できる。 2. 看護の概念と看護過程について説明できる。 3. 看護の実践と看護倫理について説明できる。 4. ナンチングル等の功績とナランティア・デュナンの功績とV.ヘンダーソン等の看護理論を理解し、看護の歴史的発展を説明できる。 5. 機械別看護、チームナーシング、プライベートナーシング等を理解し、看護ケアの実践を説明できる。 6. 看護過程と評議ポイントを理解できる。 7. 看護理論のまとめとしてナレゼンションシヨンすることができる。 8. 小児看護・思春期看護の基礎知識を理解し、説明できる。 9. 応急手当の基本を得し、且別の対応について説明できる。 10. 手術器・清拭器等の器具と手術・清拭の手順について説明できる。 11. 院内での看護の実践と評議における問題について説明できる。 12. 美容診断の考え方と進め方について説明できる。 13. フィジカルセセメントを理解し、適切な内視的・外科的処置・対応について説明できる。 14. 事例の傷病の重篤度、緊急性度を判断し、適切な処置内容を説明できる。	◎	○	○		○	○	○													
	基礎看護技術	2				2				1. 学校現場における健康と複雑の関係を理解でき、持続するための方法について説明できる。 2. フィジカルセセメントの必要性が理解でき、正しい方法で実施できる。 3. 身体面における禁物事態発生時の対応が理解でき、即ち処置を実施できる。 4. 学校現場で遭遇することの多い疾患に対する治療方法と、援助するための方法を説明できる。	◎	○				○	○												◎	
	看護臨床実習	4			2	2				1. 他人受診の流れと各科の特徴を捉えることができる。 2. 各科における予診・診察・介助・保健指導の実際を見学し、観察の目を養う。 3. 各科における代表的な検査について知る。 4. 受診者が及ぼす看護および医療の心的影響を理解する。 5. 看護の実践と評議を理解する。 6. 保健医療福祉における看護体制の機能と看護職の役割、養護教諭としての連携の在り方を察する。 【外来受診】 1. 患児(者)に対して基本的な健康観察ができる適切に報告できる。 2. 患児(者)の健廻の問題を明らかにし、それに対する対症看護が実施できる。 3. 患児(者)における感染対策が理解でき実施できる。 4. 患児(者)の過敏な環境を整えることができ、退院後の生活について考察できる。 5. 保健医療福祉における看護体制の機能と看護職の役割、養護教諭としての連携の在り方を察する。 【小児看護】 1. 小児の健廻診察ができる。 2. 小児生後の健廻診察ができる。 3. 小児の体調不調の鑑別診断ができる。 4. 小児の看護の仕方、薬理作用、有害作用を説明できる。	○	○	○		○	○	○													◎
	薬理学	2			2					1. 医薬品の取扱いや副作用について説明できる。 2. 医薬品の生体内命の説明できる。 3. 薬理に影響する要因について説明できる。 4. 主なる医薬品の作用の仕方、薬理作用、有害作用を説明できる。	◎																			
	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2			2					1. 精神保健の構造および、ライフサイクルにおける精神保健について理解し、内容を説明できる。 2. 精神保健に関する法律について理解し、内容を説明できる。 3. 精神保健における精神障害の特徴と対応について理解し、内容を説明できる。	○	◎	○		○		○													
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2			2					1. 精神保健のアセスメント方法と治療アプローチについて理解し、内容を説明できる。 2. 精神保健に関する法律について理解し、内容を説明できる。	○	◎	○		○		○													
	公衆衛生学	2			2					1. 公衆衛生学の歴史と現状について理解できる。 2. 公衆衛生学は、多くの専門分野の学問の総合学であり、各専門学の学問領域を説明できる。 3. 各専門学の範疇である公衆衛生学上の重要な事項について説明できる。 4. 公衆衛生学として求められている学問レベルについて理解し、一定の質問には説明できる。 5. 国内外の最新情報を关心を抱き、公衆衛生問題についてはノートや教科書に記録する能力をもつ。	◎					○														
	生命倫理	2			2					1. 社会的倫理の意義・歴史の変遷について理解する。 2. 「いのち」の命をめぐらす諸問題について、様々な視点をもえたうえで、自分の考えを述べることができる。 3. 「いのち」の命をめぐらす諸問題について、様々な視点をふまえたうえで、自分の考え方を述べることができる。	○				◎	○	○													
	保育原理	2	2							・保育の実施と評議の方法を理解する。 ・保育の意義と目的を理解する。 ・保育の現状や問題について理解する。 ・保育の現状と問題について理解する。	◎	◎																		
	社会的養護Ⅰ	2				2				1. 社会的養護の意義・歴史の変遷について理解する。 2. 社会的養護の制度や実施体について説明できる。 3. 社会的養護の現状と課題について理解する。 4. 義務における基本的な実践を理解し、児童の権利擁護や自立支援等について考察できるようになる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎												◎	

科 目		必修 選択	開講時期・選択授業時間数								到達目標																					
			1年次 前期		1年次 後期		2年次 前期		2年次 後期		3年次 前期		3年次 後期		4年次 前期		4年次 後期		D.P.1-1	D.P.1-2	D.P.2-1	D.P.2-2	D.P.3-1	D.P.3-2	D.P.4-1	D.P.4-2	D.P.4-3	D.P.5-1	D.P.5-2			
社会的養護 II			1							2											○	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○
	教育原理					2															◎				○	○						
	保育者論			2	2																◎	○	◎	○	○	○	○	◎				
	子どもの保健		2	2																	◎	○								◎		
	子どもの食と栄養						2	2													◎	○								◎		
	保育的心理学		2				2														○	◎	○									
	子ども家庭支援の心理学							2													◎	○			○							
	子どもの理解と援助			1					2												◎				○					◎		
	子どもの健康と安全		1				2														○	◎	○	○						◎		
	子ども家庭支援論								2												○	◎	○	○	◎	○	○					
	子育て支援		1							2											◎			○	○	◎						
	保育の計画と評価									2											◎									◎		
	保育内容 総論			1							2										○	○			◎					◎		
	保育内容 健康		1					2													◎	○								○		
	保育内容 環境		1						2												◎	○								○		
	保育内容 人間関係								2												◎	○				◎				○		
保育 科目	保育内容 ことば			1	2																◎	○			◎					○		
	保育内容 表現		1	2																	◎	○			◎					○		
	乳児保育 I						2														◎	○	○	○	○					◎		
	乳児保育 II		1						2												○	○			○					◎		
	障害児保育			2						2	2									◎	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○			
	保育内容の理解と方法 I		1	2																									○	○		
	保育内容の理解と方法 II		1		2																								○	○		
	保育内容の理解と方法 III		1			2																							○	○		
	保育内容の理解と方法 IV		1				2																						○	○		
	保育実習 I		4									↑	→								◎	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○		

科 目	必 修	選 択	開講時期・選択授業時間数								到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 2-2	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2	
			1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期													
専門科目	保育実習指導 I	2					←	→			・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開するまでの整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習への事前訪問で踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習先でのマナー知識、技術および人間関係の形成について理解する。 ・保育士として遵守すべき諸規則、諸規定、諸契約や守秘義務、職業倫理を理解する。 ・実習を行う上でのリスク管理、健康管理などについて熟知しておく。 ・実習後のスーパービジョンを行いうる体制の指導と報告会によりプレゼンテーション能力も高める。	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○	○
							←	→			・保育実習指導の授業をリankeして実施する。 ・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開するまでの整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習への事前訪問で踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習期間中、担当教師の巡回訪問では個別指導と共に、実習先のスーパーバイザーとの連携・強化を図る。 ・実習を学習として、担当教員による実習体験後のスーパービジョンと体験を共有するための報告会を行う。	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○
	保育実習 II	2							←	→	・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開するまでの整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習への事前訪問で踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習先でのマナー知識、技術および人間関係の形成について理解する。 ・保育士として遵守すべき諸規則、諸規定、諸契約や守秘義務、職業倫理を理解する。 ・実習を行う上でのリスク管理、健康管理などについて熟知しておく。 ・実習後のスーパービジョンを行いうる体制の指導と報告会によりプレゼンテーション能力も高める。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
									←	→	・保育実習指導の授業をリankeして実施する。 ・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開するまでの整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習への事前訪問で踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習期間中、担当教師の巡回訪問では個別指導と共に、実習先のスーパーバイザーとの連携・強化を図る。 ・実習を学習として、担当教員による実習体験後のスーパービジョンと体験を共有するための報告会を行う。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	保育実習指導 II	1							←	→	・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開するまでの整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習への事前訪問で踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習先でのマナー知識、技術および人間関係の形成について理解する。 ・保育士として遵守すべき諸規則、諸規定、諸契約や守秘義務、職業倫理を理解する。 ・実習を行う上でのリスク管理、健康管理などについて熟知しておく。 ・実習後のスーパービジョンを行いうる体制の指導と報告会によりプレゼンテーション能力も高める。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
									←	→	・保育者以外の児童福祉施設において、社会福祉施設の運営を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につける。 ・知識・技能と、実践を体系的に結びつける。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	保育実習 III	2							←	→	・保育者として必要な資質・能力・技術を修得する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につける。 ・知識・技能と、実践を体系的に結びつける。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
									←	→	・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開するまでの整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習への事前訪問で踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習先でのマナー知識、技術および人間関係の形成について理解する。 ・保育士として遵守すべき諸規則、諸規定、諸契約や守秘義務、職業倫理を理解する。 ・実習を行う上でのリスク管理、健康管理などについて熟知しておく。 ・実習後のスーパービジョンを行いうる体制の指導と報告会によりプレゼンテーション能力も高める。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	保育実習指導 III	1							←	→	・保育者として必要な資質・能力・技術を修得する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につける。 ・知識・技能と、実践を体系的に結びつける。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
									←	→	・保育者として必要な資質・能力・技術を修得する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につける。 ・知識・技能と、実践を体系的に結びつける。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	保育実践演習	2								2	・保育における課題に関する分析、検討を行うと共に、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法について学修する。 ・問題を発見し、その問題を解決する過程を理解し、解決手段について再検討する手法を学ぶ。							○		○	○	○	○
専門研究 I	2				2	2					教員の指導の下、各自（各グループ）で設定したテーマに基づいて研究を深めることができる。 各自（各グループ）で設定したテーマに基づいて専門領域の研究を深め、その成果をまとめることができます。 専門領域の研究プロジェクトを学び、その成果を卒業論文としてまとめることができる。	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専門研究 II	2					2					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
卒業論文	4					2	2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

栄養学科

学位授与の方針 (D.P.)

栄養学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（栄養学）の学位を授与します。

D.P.1 【知識・理解】

- 1-1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。
- 1-2) 栄養管理・栄養教育のために必要な、専門的な知識および技術を修得している。

D.P.2 【思考・判断】

- 2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。

D.P.3 【関心・意欲】

- 3-1) 保健・医療・福祉に深い関心をもち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲をもっている。

D.P.4 【態度】

- 4-1) 専門職業人としての職業倫理をもっている。
- 4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身についている。

D.P.5 【技能・表現】

- 5-1) 保健・医療・福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

教育課程編成・実施の方針 (C.P.)

【専門教育科目】

1. 食べ物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする。(1年次、2年次)

2. 臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける「臨地実習」を実施し、実践的能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う。(3年次)

3. 将来の進路に合わせた、より深い知識・技術を身につけるため、「食と健康分野」「実践栄養分野」「臨床栄養分野」の科目を修得する。さらに、卒業研究、実践活動、演習を通して、4年間の学びの集大成を行い、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力、企画立案能力を養う。(4年次)

4. 栄養士・管理栄養士教育課程の卒業要件に加え、フードスペシャリスト資格および栄養教諭一種免許状の取得に関する科目を設定する。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、フードスペシャリスト資格および栄養教諭一種免許状が取得できる。

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数						到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P								
			1 年次		2 年次		3 年次																	
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期																
社会・環境と健康	社会・環境と健康	公衆衛生学 I	2		2				1. 公衆衛生の歴史及び生命倫理について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 2. 疫学研究の分類、研究手法について理解し、疫学研究の計算ができるようになる。 3. 感染症発症要因について理解し、感染症予防法を説明できる。 4. 生活習慣病の発症要因について理解し、疾患予防、健康増進及び健康管理について説明できるようになる。 5. 最新の公衆衛生問題に 관심を抱き、疫学統計の視点から観察できるようになる。	1-1	◎	○	○	○										
		公衆衛生学 II	2		2				1. 環境衛生、公害の歴史と理解し、自分の言葉でまとめられるようになる。 2. 食中毒は公衆衛生上重要な内容であることを理解し、食中毒の予防法を他人に説明できるようになる。 3. 母子保健、学校保健では、健康診断の重要性を理解し、虫歯予防の食事指導などについて説明できる。 4. 医療保険制度と地域保健について理解し、栄養士・管理栄養士としての役割を説明できる。 5. 産業保健、精神保健、高齢者保健及び国際保健の内容を理解し、職業病及び精神疾患の予防について説明できる。	1-2	◎	○	○	○										
		健康管理概論	2				2		1. 健康の概念、健康状態の歴史をまとめられるようになる。 2. 健康増進の概念と実際について説明できる。 3. 健康管理の理論と実際について説明できる。 4. 健康行政の歴史と現状および今後の課題について理解し、説明できる。 5. 健康管理における保健医療情報、伝達子要因と栄養との交互作用による健康影響を理解できる。	2-1	◎	○	○	○										
		健康情報処理論	2		2				1. 適切な健康情報を検索・収集できる。 2. 収集した健康情報を用いて科学的根拠の有無について判断できる。 3. 科学的根拠のある健康情報を、他者に適切に情報伝達できる。 4. 健康情報の解釈する上に必要な基本的な統計処理を理解できる。	3-1	○	○	○											
		社会福祉概説	2			2			1. 社会福祉の歴史および技術について説明できる。 2. 社会福祉の制度、政策について説明できる。 3. 社会福祉の歴史について説明できる。 4. 社会福祉の諸問題について理解できる。	4-1	○	○	◎											
		看護学	2					2	1. 看護の概念について説明できる。 2. 人々の命を守る看護について一例を挙げて説明できる。 3. 病む人々の苦痛について一例を挙げて説明できる。 4. 病む人々の自立を促す看護について一例を挙げて説明できる。	4-2	○	○	○	◎										
人体の構造と機能及び疾患の成り立ち	人体の構造と機能	解剖生理学	2	2					1. 骨と筋肉、血液細胞の働き、免疫の基本的な仕組みについての基本的事情を理解し説明できる。 2. 液体循環の基本となるボルボンと集合管について、各部の構造の概略を描き、その働きを説明することができる。 3. 血液循環の仕組み、肺におけるガス交換、血圧と血圧調整の仕組みについて説明できる。	5-1	○													
		応用生理学	2	2					1. 個々の内分泌腺が分泌するホルモンについて、分泌の引き金、標的器官、生理作用を説明できる。 2. 男性と女性の生殖器の構造、性ホルモンの働き、生殖の仕組みについての基本事項を説明できる。 3. 神経細胞でのインパルスの発生の仕組みや、シナプス伝達など、生物電気の基本事項を説明できる。 4. 自律神経系を構成する交感神経と副交感神経の働きについて説明できる。 5. 三大栄養素それぞれの代謝と吸収の仕組みについて説明できる。	5-2	○													
		生化学 I	2	2					1. 生体化合物の構造および物理化学的特性 2. 酵素の役割、生理的意義 3. 遺伝情報発現機構(流れ) 4. 解糖、クエン酸回路、呼吸鎖/酸化リソ酸化の連動と生理的意義	5-3	○	◎	○	○										
		生化学 II	2		2				1. 代謝各論を理解し、それぞれの生理的意義を高校生以上の学力を持つ人々に説明できるようになる 2. 複数の代謝経路が互に相互作用して代謝全体が運営されていることを理解する 3. 生体内情報伝達機構の概要を理解し、高校生以上の学力を持つ人々に説明できるようになる 上記の3点に重点を置き、生命現象を化学の目で見つめることができる素地を作るようにする。生体内化合物および化学反応を単に暗記するよりも、生命現象がある意味化学的世界を利用することにより、成り立つものであるという感覚を養うことにしておく。 4. 各疾患の病因・病態を説明できる。	5-4	○	○	◎	○										
		病理基礎医学	2		2				1. 肥大・萎縮・細胞死・循環障害、炎症、免疫、感染症、腫瘍などの病理学の基本概念を説明できる。 2. 各疾患の身体所見・検査所見・治療法を説明できる。	5-5	◎	○	○											
		疾病診断治療学 I	2			2			3. 各疾患の特徴を説明できる。 4. 各疾患で用いる薬剤の副作用・手術の合併症について説明できる。 5. 他の保健・医療従事者との連携・協働する方法を説明できる。	5-6	◎	○	○											
		疾病診断治療学 II	2				2		1. 各疾患の病因・病態を説明できる。 2. 各疾患の身体所見・検査所見・食事療法を含めた治療法を説明できる。 3. 各疾患の特徴を説明できる。 4. 各疾患で用いる薬剤の副作用・手術の合併症について説明できる。 5. 他の保健・医療従事者との連携・協働する方法を説明できる。	5-7	◎	○	○											

科 目	必 修 授 業 時 間 数	開講時期・週授業時間数						到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P								
		1年次		2年次		3年次																	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期																
専 門 基 礎 分 野	微生物学	2				2		1. 微生物の基本的な性質を説明できる。 2. 主な病原性微生物の性質と病原性を説明できる。 3. 主な病原性微生物の発病のメカニズムと感染予防について説明できる。 4. 病原性微生物に対する効果的な免疫システムを説明できる。			◎					○							
	運動生理学	2				2		1. 運動の種類、体力の種類にはどのようなものがあり、身体は運動でどのように変化し、それはどのような意味を持っているか説明できる。 2. 体力・トレーニングの基礎概念とその実際について理解できる。 3. 私たちが健康に生きるために、どのような運動がどれだけ必要であるか、また健康状態をどのように判定するかを説明できる。 4. 糖尿病、高血圧などの生活習慣病は、運動をすることである程度発病を予防し、進行を遅らせることが期待できる。このような病気の予防という観点からも運動を理解できるようになる。			○	○	○	○									
	食品学 I	2		2				1. 食品成分表の歴史、内容を説明できる。 2. 食品の構成要素である水、炭水化物、脂質、タンパク質、無機質、ビタミン、食物繊維などについて生物学的特性を説明できる。			○	○	○										
	食品学 II	2			2			1. 各食群ごとに、それぞれの材料特性、化学・物理特性、栄養特性、嗜好特性について説明できる。 2. 食品のおいしさに関する色、香りの成分や物性について説明できる。 3. 酸化、加熱、酵素などによる食品成分の変化を説明できる。			◎	○	○										
	加工食品機能論	2				2		1. 加工食品に使用される機能性素材について説明できる。 2. 加工食品の保存中の変化や、変化を抑制するための包装機能について説明できる。 3. 加工食品に使用される添加物の使用目的と生理機能について説明できる。 4. 基本的な加工原理、主な加工食品の加工方法と機能性について説明できる。			○	○	○										
	調理学	2		2				1. 食品の「安全」「栄養」「嗜好」にもとづいた食事設計・調理環境・調理操作を説明できる。 2. 調理操作に必要な知識を学び、実習目へ応用できる。 3. ライフステージ別の味覚・嚥下の生理、嗜好特性、食品の物性を説明できる。			○		○										
	食品衛生学	2				2		1. 食品衛生行政と関係法規について説明できる。 2. 食品ごと、および家庭における食品衛生に関する留意点について説明できる。 3. 飲料水の安全衛生について説明できる。 4. 寄生虫と細菌について説明できる。 5. 食品添加物について説明できる。 6. 食中毒の実態と予防法について説明できる。 7. 食習慣と食性物質について説明できる。 8. 食品と致敏性物質の関わりについて説明できる。 9. 廉房、および病棟で使用される消毒薬の特性を説明できる。			○	○	○										
	フードスペシャリスト論	2	2					1. フードスペシャリストの概念、その業務内容と専門性について説明できる。 2. 食べ物のおいしさについて説明、心理、食欲、嗜好、食文化など各方面から説明できる。 3. 日本人の生活の変遷を理解し、日本人の食物消費行動の特徴、食産業について説明できる。 4. 現代の食卓の課題、食環境と食育、フードスペシャリストの展望について説明できる。			○												
	食品の官能評価・鑑別論演習	2			2	2		1. 食品の品質評価に関して、官能検査・化学的評価法・物理的評価法などの原理や手法を説明できる。 2. 個々の食品について種類やそれぞれの特性を理解し、鑑別方法や品質の保持について説明できる。 3. 最新の食品鑑別技術を理解し、食の現場での応用例について説明できる。			○												
	食品流通・消費論	2			2			1. 社会の変化と消費構造の変化について説明できる。 2. 食の生産・流通・消費の各部門の特徴を説明できる。 3. 各食品ごとの流通の役割・構造を説明できる。 4. 多様な消費形態と外食産業・中食産業などについて企業行動について説明できる。 5. 食の安全性に対する認識を深め、企業の取り組みを説明できる。			○	○											
	フードコーディネート論	2				2		1. フードスペシャリストとして社会に貢献できること目標に、実践において「フードコーディネーター」の果たす役割と基礎知識を学ぶ。 2. 実際の食生活の中で学習した内容を活用することにより、心の豊かさや食文化への理解が深まるところを学ぶ。 3. 「食」に関わる全ての営みが、食教育につながることを知る。			○	○											
実 験 ・ 実 習	解剖生理学実習	1		3				1. 骨格模型の製作と小手アシストを通して、人体を構成する主な骨と筋肉について、名称を言えるようになる。 2. 泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようになる。 3. 実験結果のまとめ、グラフ化、考査事項についての調査を通じて、科学レポートの書き方を身につける。			○	○		○				○					
	人体の構造と機能基礎実習	1	3					1. 食物中の糖類の消化に関わる主な消化酵素の性質、働きについて説明することができる。 2. 生化学および生理学で用いる基本的な装置、実験器具の名称・使用法に習熟する。 3. ホルモンによる尿量調節の仕組みについて説明できるようになる。 4. 最大酸素吸収量測定の意義を理解し、自転車エルゴメーターを用いた推定法に習熟する。 5. プラットの解剖を通して、哺乳動物の臓器の名称、形状、働きについて説明できるようになる。 6. 「管腔内変化」と「膜溶解」の違いについて説明できるようになる。			○	○		○			○						
	生化学実習	1			3			1. グルコース、アミノ酸などの簡単な生体分子を分子模型で組み立てることができる。 2. 実験試薬、実験器具、および実験装置の安全な取り扱いを習得し、実習で取り上げたすべての基本操作を一人でできる。 3. 実験で得られたデータを解釈し、ひとに説明するための適切なグラフ、図を作成できる。 4. 各実験項目ごとの実験が照実験であるかを説明できる。			○	○	○	○									
	食品学実験	1		3				1. 実験器具の取り扱い、試料の調製などの化学実験の基礎知識および基礎技術を習得する。 2. 実験で取り上げていくつかの食品成分について、その基礎的な化学特性を説明できる。 3. 実験結果をまとめ、理論と照らし合わせて考察を行い、レポートにまとめる一連の過程を理解し、その技術を習得する。			○	○											
	食品栄養実習	1			3			1. 加工食品の材料特性と調理方法について説明できる。 2. 加工食品の成分特性について説明できる。 3. 市販食品の適正な利用法について説明できる。			○	○											
	食品衛生学実習	1				3		1. 基本的な微生物の取扱いができる。 2. 厨房における微生物衛生管理の重要性を説明できる。 3. 基本的な微生物検査技術を習得する。 4. 食品の変性・変質に関する分析技術を習得するとともに、食品の鮮度指標について説明できる。 5. 食品添加物の基本的な分析技術を習得する。				○		○			○						
	健康情報処理実習	1			3			1. アンケート調査の一連の流れを説明できる。 2. データの整理について説明できる。 3. 仮説検定について説明できる。 4. 栄養学研究で得られたデータについて、適切な統計的処理方法が選択できる。			○	○	○				○						
	基礎調理学実習	1	3					1. 器具の使用法・計量の必要性・調理の基本などを踏まえた上で各種調理操作の調理上の要点について説明できるようになる。 2. 料理様式および食事構成について学び、主食・主菜・副菜・汁物の種類と調理法を活用できるようになる。 3. 季節ごとの代表的な食事について、取り扱い方や栄養素の特徴を説明できる。 4. デザートやおやつ、行事食について作る意義・文化や特徴を歴史に活用できるようになる。			○				○	○	○						
	応用調理学実習	1		3				1. 基礎調理学実習の学習を踏まえた上で、各種調理操作や食品の調理上の要点について実習に応用できるようになる。 2. 独立調理して、朝食・昼食・夕食の特徴や料理例・自分で日常の調理法や調理例について季節感や好みを取り入れ、活用できるようになる。 3. 和風・洋風・中国風料理の特徴や種類を理解したうえで、折衷料理も自由に作成できる。 4. デザートやおやつ、行事食について作る意義・文化や特徴を歴史に活用できるようになる。			○				○	○	○						

科 目			必 修 選 択	開講時期・週授業時間数						到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P								
				1年次		2年次		3年次																	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期																
											1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1								
専門教育科目	基礎栄養学	臨床基礎医学実習	1					3				○	◎	○			○								
		基礎栄養学Ⅰ	2			2						○	○												
		基礎栄養学Ⅱ		2			2					○	○												
		栄養学概説	2			2						○	○	○											
		応用栄養学Ⅰ	2				2					○	○	○	○		○								
	応用栄養学	応用栄養学Ⅱ	2					2				○	○	○	○		○								
		運動・環境と栄養		2					2			○	○	○											
		栄養教育論Ⅰ	2					2				○	○	○	○	○	○								
	栄養教育論	栄養教育論Ⅱ	2						2			○	○	○	○	○	○								
		栄養カウンセリング論	2						2			○	○	○	○	○	○								
		臨床栄養管理学							2			○	○	○			○								
専門分野	臨床栄養学	栄養治療学Ⅰ	2						2			○	○	○	○	○	○								
		栄養治療学Ⅱ		2						2		○	○	○	○	○	○								
		臨床栄養活動論	1						1			○	○	○	○	○	○								
		介護概論	1						1			○	○	○											
		公衆栄養学Ⅰ	2					2				○	○	○											
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅱ	2						2			○	○	○			○								
		地域栄養活動論	2							2			○	○	○	○	○								
		給食計画論	2				2					○	○	○											
	給食経営管理論	2					2					○	○	○											

科 目	必 修 授 業 時 間 数	必 修 授 業 時 間 数	開講時期・週授業時間数						到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P								
			1年次		2年次		3年次																	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期																
実験・実習	栄養学実習	1					3		1. 糖質代謝に関する生理・生化学的指標を実際に測定し、その栄養評価上の意義を説明できる。 2. エネルギー代謝に関する生理・生化学的指標を実際に測定し、その栄養評価上の意義を説明できる。 3. たんぱく質代謝に関する生理・生化学的指標を実際に測定し、その栄養評価上の意義を説明できる。 4. エネルギー代謝に関する生理・生化学的指標を実際に測定し、その栄養評価上の意義を説明できる。 5. ピタミン、ミネラル、その他栄養問題事項に関して、その栄養評価上の意義を説明できる。	◎	○	○												
	応用栄養学実習	1					3		1. 食事摂取基準を活用し、ライフステージ別の対象者の状態・特性に応じた栄養管理を行なうことができる。 2. 作製献立に基づいて実習を行う中で、各ライフステージにおける調理上の留意点を理解し、必要な調理技術を習得できる。 3. 破壊法別のアシスターの栄養管理について理解し、それに必要な献立作成、栄養補給法の立案ができる。 4. 特殊環境下で働く人々の栄養管理について理解し、それに必要な献立作成、栄養補給法の立案ができる。	○	◎	○	○	○	○	○								
	栄養教育論実習 I	1					3		1. 食事調査、行動記録、身体計測により、対象者の栄養・健康に関する課題を抽出することができる。 2. 対象者カクセス・アクセスメントを基に、個々に対応した栄養教育計画を作成し、栄養教育を実施することができる。 3. 栄養指導効果を高めるためのプレゼンテーション技術について学び、実施することができます。 4. 対象者に対応したコミュニケーションを習得する。	○	○	○	○	○	○	◎	○							
	栄養教育論実習 II	1					3		1. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリングマインドと傾聴のための技術を獲得することができる。 2. ロールプレイングを通して、栄養カウンセリングの流れを理解することができます。 3. 病態・食療法について理解し、対象者へ適切な栄養教育プログラム案を作成し、実施することができます。 4. 栄養教育マネジメントに従って総合的に評価し、評価結果をフィードバックすることができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	臨床栄養学実習	1					3		1. 病院栄養管理の流れを理解し、説明できる。 2. 栄養補給法の種類と適応範囲を理解し、適確に選択できる。 3. 疾患・病状および栄養ケアを把握し、治療のための栄養ケア計画を作成できる。 4. 身体状況や栄養状態に応じた疾患・病状別の献立を作成し、調理できる。 5. 食事療法を利用される特殊食事の種類、特徴を理解し、説明できる。 6. 経腸栄養管理に必要な経腸栄養士の知識や技術を修得できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	公衆栄養学実習	1					3		1. 適切なニーズアセスメントを達成・実施し、プリシード・プロシードモデルに基づいた評価判定ができる。 2. 対象集団や地域の特性を把握し、適切な社会資源を活用した公衆栄養プログラムを作成することができる。 3. 健康的な環境づくりを構築することができる。	◎	○	○	○							○				
	給食経営管理実習 I	1					3		1. 実習計画に基づき各自が分担の作業を果たしながら、協力・連携の重要性を認識できる。 2. 給食計画論および関連分野の理論・知識・技術と実習との関連が理解できる。 3. 給食・食事管理、食材管理、衛生管理、生産管理等の業務の計画、実施、評価における機能等の役割ができる。実務業務が遂行できる。 4. 給食調理業務のための基本的な調理技術を修得し、活用できる。	○	○	○	○							○				
	給食経営管理実習 II	1					3		1. 給食経営管理論の理論・実習の関連性を理解できる。 2. 給食経営管理業務の中心となる栄養・食事管理と、食材料管理、衛生管理、生産管理、品質管理、施設設備管理、会計管理、事務管理などの各管理業務との関連性について理解し、総合的な判断ができる。 3. 対象施設の特性に応じた栄養・食事管理の計画・実施・評価のあり方を、実務に基づいて説明できる。 4. 給食管理の資源である「人」「物」「お金」「情報」などの給食における特性を把握し、マネジメントの理論を実務で展開する手法を理解できる。	○	○	○	○							○				
	総合演習 I	1					2		1. 臨地実習の目的を理解し、実際に当たって必要な知識や技術を身につけ、積極的な姿勢で実習に臨むことができる。 2. 臨地実習 I に向け、特定給食施設における給食システムの概要、給食の特質および栄養士業務を理解する。	○	○	○	○						○	○				
	総合演習 II	1					2		1. 管理栄養士が必要な最新の栄養学分野における情報、関連領域の動向を理解し、説明できる。 2. ライフステージ別栄養分野における栄養改善を必要とする事例について、専門科目で学んだ内容から総合的に理解し、適切な栄養ケア計画を立案できる。 3. それぞれの疾患において、成因・病態・治療法を総合的に理解して、具体的な栄養管理方針を提案できる。 4. 各疾患に対する栄養計画の作成、栄養ケアの実施、モニタリングを行い、治療のための栄養管理を行なうことができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
臨地実習	臨地実習 I	1					1週		1. 栄養士・管理栄養士業務の実践活動の場に臨んで、学内で学んだ理論と実践の現状を結び付けて理解できる。 2. 学内で修得した給食の運営および給食経営管理に関する知識や技術を、臨地実習設計で適用できる。 3. 給食の運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面等のマネジメントを行なう能力を修得する。 4. 実践活動の場で業務上の問題点や課題に気づき、解決していく能力を身に付ける。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	臨地実習 II	2					2週		1. 医療施設における栄養管理の意義、方法について理解し説明できる。 2. 栄養ケアマネジメントを理解し実施することができる。 3. チーム医療を行なうためのコミュニケーション能力を習得できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	臨地実習 III	1					1週		1. 保健所・市町村保健センターの性格を理解し、行政管理栄養士の業務について説明できる。 2. 地域の実態に応じた公衆栄養プログラムを実践、評価することができる。 3. 多職種との連携を図ることができる。 4. 医療機関における到達目標は、臨地実習 II に準ずる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
実践活動	食と健康分野	調理師論	2	2					1. 調理師試験に合格できる知識を習得する。 2. 管理栄養士・管埋栄養士と照らし合わせた際の、調理師業務の位置づけと役割を説明できる。 3. さまざまな職場における、調理師・栄養士・管理栄養士の連携を図ることができる。	○	○									○				
	薬事法規概論	2	2						1. 登録販売者試験に合格できる薬事法規知識を習得する。 2. 医薬品販売において必要な法規・制度について理解し、順守することができる。 3. 店舗運営で必要な医薬品や法律知識を身につける。	○	○									○				
	食品機能特論	2					2		1. 食品の機能性成分が三次機能を発揮するメカニズムを説明できる。 2. 食品の機能性成分を特有するための技術的手法を説明できる。 3. 食品の概念、および、その機能性について説明できる。 4. 食品成分同士の相乗効果について説明できる。 5. 食品成分と医薬品の相乗効果について説明できる。	○										○				
	実践調理・調理科学演習	1					2		1. 調理実習と同時に実験を行い、その結果や知識を活かした調理技術を習得する。 2. これまでに作成していない和菓子、洋菓子、パン、デザート等の他、ソフト食を作成する。 3. 食品の官能検査、物性測定、粘度測定等を行い、その評価方法を習得する。 4. 行事手帳や創作料理を作成し、その技術を習得する。										○		○			
	運動栄養演習(スポーツ栄養含む)	1					2		1. 「健康づくりのための身体活動基準」を活用した身体活動計画の立案および説明ができる。 2. 肥満や耐酸能異常等の生活習慣病の改善を目的とした運動处方と栄養管理について立案および説明ができる。 3. 成長期・成人期・高齢期の各ライフステージに合わせた、運動および栄養の指導ができる。 4. 各アスリート種目に応じたトレーニングと栄養摂取のタイミングおよび栄養管理について説明できる。 5. 各アスリート種目に適したトレーニングとパフォーマンス力向上のための栄養管理方法について立案することができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	国際栄養論	2					2		1. 国際栄養学の視点、すなわち食糧・栄養・健康の問題をどう捉えるか、またなぜそのような視点が大事なのか説明できる。 2. 国民の健康度や疾病の状況は各国によって異なり、それらは各国の食糧供給や栄養状態、あるいは栄養政策に大きく依存していることを説明できる。 3. 国際栄養活動の基本のあり方について、説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				

必 修 科 目	必 選 科 目	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P								
		1年次		2年次		3年次		4年次																	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																
助 ・ 専 門 研 究	臨床栄養分野	臨床栄養管理演習	1						2	1. 病態・病能および栄養状態を把握し、各種疾患の治療のための栄養ケア計画を立案できる。 2. 身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理できる。 3. 栄養管理ソフトを用いて、常食献立から治療食・療養食へ展開できる。		○	○	○		○	◎								
		ゲノム科学臨床応用論	2						2	1. ゲノムの概念、ゲノム解析技術、遺伝子診断技術について説明できる。 2. バイオインフォーマティクスの現状と将来像について説明できる。 3. 遺伝子診断による疾病的発症予想技術について説明できる。 4. 遺伝子診断結果の疾病治療への応用と実践について説明できる。 5. 遺伝子診断結果の栄養治療への応用と実践について説明できる。			○	◎				○							
	その他	科学英語文献講読	1						1	1. 英語で書かれた栄養に関する学術論文を読むことができる。 2. 栄養系大学院入試の英語科目に対応することができる。 3. 英語圏の海外留学において、栄養系の科目を履修できる能力を習得する。				○			◎								
		卒業研究	4					4	4	1. 研究テーマについて、情報の収集、問題の設定、研究方法を検討し、研究計画を立てることができる。 2. 研究計画に従って研究を遂行し、研究結果を他人に分かりやすい形で整理することができる。 3. 研究に関する参考論文から情報を収集し、自己の結果と客観的に比較・考察することができる。 4. 研究の成果を、科学的な研究論文としてまとめることができる。		○	○	○	○	○	○	○							
		実践活動	2					2	2	1. ゼミのテーマについて、調査計画・研究計画を立案することができる。 2. ゼミのテーマについて、文献検索や資料の収集をすることができる。 3. ゼミのテーマの専門的な内容について理解し、客観的な考察を加えることができる。		○	○	○	○	○	○								
		管理栄養士演習 I	2						2	1. 管理栄養士国家試験教科「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」および「基礎栄養学」の分野のポイントを説明できる。		◎	○												
		管理栄養士演習 II	2						2	1. 管理栄養士国家試験教科「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」および「給食経営理論」の分野のポイントを説明できる。		◎	○												

栄養学科

学位授与の方針 (DP)

DP 1 【知識・理解】

1 - 1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。

1 - 2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識及び技術を修得している。

DP 2 【思考・判断】

2 - 1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。

。

DP 3 【関心・意欲】

3 - 1) 保健、医療、福祉に深い関心を持ち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲を持っている。

DP 4 【態度】

4 - 1) 専門職業人としての職業倫理を持っている。

4 - 2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身についている。

DP 5 【技能・表現】

5 - 1) 保健、医療、福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

1. 総合人間科学の科目を通して、社会人としての基礎的な教養と知識を身につけるとともに、管理栄養士及び栄養士にふさわしい豊かな人間性とコミュニケーション能力を養う。

2. 食べ物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする。(1年次、2年次)

3. 臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける「臨地実習」を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う。(3年次)

4. 卒業研究、卒業ゼミ、演習を通して、4年間の学びの集大成を行う。また、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力を養う。(4年次)

5. 各人が関心のある科目を体系的に履修できることを目的として、総合人間科学、専門基礎分野、専門教育分野の科目の中から、卒業必修科目、栄養士必修科目、管理栄養士必修科目、及び教職に関する科目をそれぞれ設定する。

科 目	選 択 一 種 免	開講時期・週授業時間数	到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P											
				1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		1 - 1	1 - 2	2 - 1	3 - 1	4 - 1	4 - 2	5 - 1			
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期										
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	2 2	2			2						1. 教職の意義や教師の職務内容、社会的責任などについて説明することができる。 2. 専門職としての教師に求められる資質、能力について説明することができる。 3. 教員養成の歴史、現状、現職研修の動向について説明することができる。 4. 教職をめぐる改革動向について説明することができる。	◎								
	教育原理	2 2	2									1. 教育の理念や思想、原理などについて基本的な事項を説明することができる。 2. 学校教育の歴史や機能について基本的な事項を説明することができる。 3. 現代教育の課題や改革動向について説明することができる。	◎								
	教育心理学	2 2			2							・学習のメカニズム（どのように人は発達して、学習し、考え、記憶するのか）の過程を説明できる ・学習活動にかかる原因帰属や動機づけのタイプを説明できる ・児童・生徒との関わり方のタイプや人格発達の過程を説明できる ・授業形態や評価法を説明できる	◎	○	○	○	○	○	○		
	教育社会学	2 2				2						1. 子どもの発達を社会的・文化的条件から理解することができる。 2. 現代社会における子どもの発達に関するトピックスを学び、概要を説明することができる。 3. 子どもの発達を説明する社会学の基礎的概念を活用することができる。	◎		○						
	教育課程論	2 2				2						1. 教育課程の意義、編成の原理と方法などの基本的事項について説明することができる。 2. 学習指導要領の内容と特徴について説明することができる。 3. 教育課程改革論など教育課程の現状や課題について説明することができる。	◎								
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2 2					2					1. 特別活動の特質や課題について理解し説明することができる。 2. 学習指導要領における特別活動の位置づけや内容を理解し説明することができる。 3. 学校・子どもの実態と特別活動における教師の指導性について理解し説明することができる。 4. 特別活動に関わる実践記録を分析することができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	
	特別支援教育論	1 1				1						①特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解している。 ②特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する学校制度を含む教育課程や支援の方を理解している。 ③特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。				○	◎				○
	教育方法論	2 2				2						1. 教育実践の原理や課題などについて説明することができる。 2. 授業の原理や方法を理解し、学習指導案を書くことができる。 3. 実践記録の分析方法を身につけて、分析することができる。 4. 授業改革の課題と動向について説明することができる。	◎								
	学校栄養指導論 I	2 2				2						1. 児童生徒における食に関する課題と指導、管理の意義を理解できる。 2. 児童生徒の食事に関する実態把握と分析方法を理解できる。 3. 学校給食の意義と栄養教諭の使命、役割を理解できる。 4. 社会と環境と児童生徒の食の指導との関連性を理解できる。	○	○	◎	○	○	○	○		
	学校栄養指導論 II	2 2					2					1. 学習指導要領が理解できる。 2. 食の指導の全体的な計画方法、各教科における食の指導の内容が理解できる。 3. 食に関する指導案の作成のための基礎的知識を獲得する。 4. 食に関する指導の方法論について実践を通して理解できる。 5. 学校、家庭、地域の連携による食の指導の展開方法が理解できる。	○	○	◎	○	○	○	○		
	道徳教育の理論と実践	2 2			2							(1) 道徳と実践にかかる課題を理解することができる。 (2) 学習指導要領における道徳教育の位置づけを説明することができる。 (3) 学習指導案の基本的な構造を理解することができる。 (4) 道徳の授業実践にかかる基本的な知識を習得し、模擬授業の形で実践することができる。	◎		○	○				○	
	生徒指導論	2 2				2						1. 生徒指導の意義・内容を説明できる。 2. 子ども理解の内容・方法を説明できる。 3. 問題行動・トラブル等への対応ができる。	○	◎	○	○	○	○	○		
	教育相談(カウンセリングを含む。)	2 2			2							1. 生徒と教員間のコミュニケーションについて理解を深め、カウンセリングの技術を使うことができる。 2. 学校内外で発生する子どもに関する社会的問題について理解を深めることができる。 3. 子どもの問題に対して具体的な援助計画を立てられるようになる。	○	○	○	○	○	○	○	◎	
	栄養教育実習事前事後指導	1 1				←		→				1. 事前 教育実習の意義と目的、実習にあたっての心がまえ、実習中の注意点を理解し、食の指導に関わる授業研究を実践できる。 2. 事後 実習の習得事項から自省的整理を行い、今後の課題を明確にすることができる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	
	栄養教育実習	1 1					←	→				1. 食の指導における具体的な研究課題を見出せる。 2. 自己の望ましい栄養教諭像を形成する。 3. 教職に関する実践的・研究的能力を身につける。	○	◎	○	○	○	○	○	○	

教職実践演習（栄養教諭）	2	2							2	1. 教職課程関連科目について振り返り、各自に残された課題を確認する。 2. 栄養教諭として求められる資質・能力を具体的な学校場面に位置づけて考え ことができる。 3. 信頼される学校づくりに資する栄養教諭のあり方についての理解を深めること ができる。 4. 児童生徒等の理解の方法とそれに基づく教育活動について実践力を高めること ができる。 5. 食の指導の計画・実施・評価に関する実践力を高めることができる。 6. 栄養教諭としての自律的な成長に必要なリソースの活用法を身につけること ができる。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>					
--------------	---	---	--	--	--	--	--	--	---	---	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------------------	-----------------------

英語学科

学位授与の方針（DP）

人文部英語学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、基準となる単位数を修得し、以下の素養・能力を有すると認められる者に学士（人文学）の学位を授与します。

DP 1【知識・理解】

- 1-1) 國際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
- 1-2) 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけている。

DP 2【思考・判断】

- 2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。

DP 3【関心・意欲】

- 3-1) 美文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。

- 3-2) 國際社会や地域社会が抱える課題に関心をもち、課題解決のために自らの能力を高めようとする意欲を身につけている。

DP 4【態度】

- 4-1) グローバル社会にとって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。

- 4-2) 國際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。

- 4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てて方法を考え、実行できる。

DP 5【技能・表現】

- 5-1) 他の者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。

- 5-2) 英語及び日本語による情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（CP）

1. 英語学科カリキュラムは、教養教育科目を基盤とし、専門教育科目の「英語スキル科目」、「英語コミュニケーション科目」、「国際理解科目」、「地域貢献・国際貢献科目」、「演習・研究」で構成する。
2. 「英語スキル科目」では、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎を育成する。
3. 「英語コミュニケーション科目」では、英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）を向上させるため、Active Learning の手法を取り入れた科目や英語文学を含む英語の総合力向上を目指す科目で構成する。
4. 「国際理解科目」では、異文化理解を深め、英語・日本語などを通じて、国際社会に関する知識と思考能力などを養う科目と、海外研修に関わる科目で構成する。
5. 「キャリア形成科目」では、国際経済やビジネス等についての知識を深める科目を組み込んでいる。また、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目では、所定の単位数を修得することで、高等学校教諭一種免許状（英語）、中学校教諭一種免許状（英語）の取得、日本語教員養成課程修了証が授与される。
6. 「地域貢献・国際貢献科目」では、英語を通して地域社会や国際社会における課題解決力やリーダーシップを育成する。
7. 「演習・研究科目」では、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を育成する。

科 目	必修 選択	開講時期・週授業時間数							到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2											
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次																						
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																					
英語 ス キ ル 科 目	実践英語音声学 I	2	2							1. 聽音音声学(Articulatory Phonetics)的に見た英語母音の位置関係が説明できる。 2. 英語母音の發音記号の違いが説明できる。 3. 英語音の強弱と弱形の違いが説明できる。 4. 英語の強勢(Stress Accent)とリズム(Rhythm)の関係が説明できる。 5. 英語音と日本語音の音構造の基本的な違いが説明できる。	◎																			
	実践英語音声学 II	2		2						1. 聽音音声学(Articulatory Phonetics)的に見た英語子音の一覧表を理解し説明できる。 2. 英語子音の発音記号の違いが説明できる。 3. 英語のリズムヒントネーションの基礎的な関係が説明できる。 4. 英語音と日本語音の音構造の基本的な違いが説明できる。	◎																			
	グラマー・コンポジション I	2	2							1. 英文法の基礎（用法・機能・意味・特殊表現等）を理解できる。 2. 学習した文法知識を基にして、正しい英文を書くことができる。	◎																			
	グラマー・コンポジション II	2		2						1. 英検2級程度の文法を理解できる。 2. 学習した文法知識を用いて、ある程度まとまりのある文章を書くことができる。	◎																			
	英検演習 I	2	2							1. 英検中級レベルの語彙・文法・読解問題の出題形式・傾向を十分理解し、問題を迅速かつ正確に解くことができる。 2. リスニングの形式・重要ポイントを十分理解し、問題演習を通して、安定して得点をあげることができる。 3. 制限時間内でポイントを押さえた基礎的な英文を書くことができる。	◎		○							◎										
	TOEIC演習 I	2		2						1. TOEICテストのリスニングとリーディングの基礎的な問題を迅速かつ正確に解くことができる。 2. TOEICの出題傾向や解答テクニックを知ることができます。 3. TOEIC問題で扱われている基礎的なビジネスに係る用語に慣れることができる。 4. TOEIC問題に頼むことなく基礎的な語彙や慣用句を理解し使うことができる。	◎		○																	
	英検演習 II	2			2					1. 英検中級レベルの語彙・文法・読解問題の出題形式・傾向を十分理解し、問題を迅速かつ正確に解くことができる。 2. リスニングの形式・重要ポイントを十分理解し、問題演習を通して、安定して高得点をあげることができる。 3. 制限時間内でポイントを押さえた基礎的な英文を書くことができる。	◎		○							◎										
	TOEIC演習 II	2				2				1. ハイレベルのTOEICスコアを目指す。 2. TOEICの問題を、文法・語法・構文の知識に基づいて解答することができます。 3. TOEICの問題形式に慣れ、実用性に優れた語彙や表現の知識を増やすことができる。 4. TOEICが対象とする様々な状況における会話や音声告知、文書の内容を理解することができます。	◎		○																	
	英語プレゼンテーション I	2			2					1. State their own opinions on a variety of topics 2. Brainstorm ideas for presentation topics and content 3. Write a speech and perfect it through various drafts 4. Perfect presentation skills for delivering a speech	◎								○	○										
	英語プレゼンテーション II	2				2				1. Practice oral presentation skills and techniques 2. Develop writing skills for presentations 3. Learn to use presentation software 4. Create interesting presentations that can be delivered confidently 5. Prepare and present for the Zion Cup English Contest	◎								○	○										
	英語プレゼンテーション III	2					2			1. Express opinions clearly and confidently 2. Listen to other people and respond competently 3. Participate in debate preparation with other group members 4. Debate a given topic in English	◎								○	○										
英語 コ ミ ュ ニ	英語コミュニケーション I	2	4							1. Use English in real conversations with a partner or group 2. Speak English more smoothly with correct rhythm 3. Use the English they have learned in communicative activities and authentic situations 4. Study independently using the online CHIeru system 5. Maintain an online English journal and portfolio	◎		○		○				○											
	英語コミュニケーション II	2		4						1. Study English related to travelling and studying abroad 2. Maintain conversations with native-English speakers 3. Present about Japanese culture in English 4. Write and perform a speech for the Zion Cup English Contest 5. Study independently using the online CHIeru system 6. Maintain an online English journal and portfolio	◎		○		○				○											
	英語ディスカッション I	2			2					1. Develop the process of communication through discussion 2. Experience, practice, and improve key communications skills 3. Express their own ideas and values 4. Study independently using the online CHIeru system 5. Maintain an online English journal and portfolio	○		○								◎									
	英語ディスカッション II	2				2				1. Build on discussion skills developed in the 1st semester 2. Improve key communications skills and broaden vocabulary 3. Form their own ideas and values through guided research 4. Study independently using the online CHIeru system 5. Maintain an online English journal and portfolio	○		○								◎									
	英語プロジェクト I	2					2			1. Plan and prepare a curriculum for the class 2. Examine current global and cultural issues and discuss them in a meaningful manner 3. Research to prepare presentations to the class 4. Discuss and evaluate the material that is introduced in class 5. Self- and peer-evaluate achievement in this course	○	○	○	○	○						◎	○								
	英語プロジェクト II	2						2		1. Understand case studies of international and domestic companies 2. Research to prepare presentations to the class 3. Discuss and evaluate the situations that are introduced in class 4. Prepare a case study and action plan and present to the class	○	○	○	○	○						◎	○								
	グローバル英語 I	2						2		1. Improve their fluency in authentic discussion situations 2. Develop their critical thinking skills through research-based activities 3. Research debate topics and present their own ideas	○	○	○	○	○					○	○									
	グローバル英語 II	2						2		1. Develop their English interview skills working with authentic subjects 2. Express their opinions on different topics related to current events 3. Analyse data and present on it in English	○	○	○	○	○					○	○									
	リーディング I	2	2							1. 1つの英文には、主語とそれを受ける述語動詞があることを理解できる。 2. 述語動詞のあとには、文型に応じて、名詞句や前置詞句が配置されていることが理解できる。 3. 上記1,2.を理解した上で、文法に則った読解力を付けることの重要性を理解できる。 4. 授業教材以外に、英語小説など自分が選んだ読み物を5万単語以上、読むことができる	◎		○									○	○							
	リーディング II	2		2						1. Reading 1で学修した基本的な読解技術を、徐々に自動化して読み進めることができ る。 2. 授業教材以外に、英語小説など自分が選んだ新たな読み物を5万単語以上、読むこ とができる	◎		○								○	○								
	リーディング III	2		2			2			1. 単語単位ではなく、フレーズ単位で英語を読むことができる。 2. 読み物の中に頼み出する英単語を身につける。単語力と文法力を向上させる。 3. 授業教材以外に、英語小説など自分が選んだ新たな読み物を5万単語以上、読むこ とができる	◎		○									○								

科 目		必修 選択	開講時期・週授業時間数						到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2											
			1年次		2年次		3年次																							
			前期	後期	前期	後期	前期	後期																						
ケ シ ヨ ン 科 目	リーディング IV	2				2			1. 電子辞書を使いこなし、未知の単語を含んだ英文でも大幅にスピードを落とさずに読むことができる。 2. 複雑な構成の文章でも、正しく文意を把握することができる。 3. 授業教材以外に、英語小説など自分が選んだ新たな読み物を5万単語以上、読むことができる。	◎		○							○											
	英語学概論I	2			2				1. 英語学と言語学の関係について理解できる。 2. 英語学の歴史の概略を理解できる。 3. 音声学・韻律論の基礎を理解できる。 4. 形態論の基礎を理解できる。 5. 統語論の基礎を理解できる。	◎		○							○											
	英語学概論II	2				2			1. 意味論の基礎を理解できる。 2. 社会言語学をはじめ、応用言語学の基礎を理解できる。 3. 平易な英語で書かれた英語学・言語学の専門書を読める。	◎		○						○												
	ライティング基礎	2			2				1. 日本語を直訳しても、必ずしも伝えたい英語にならないことを理解している。 2. 表現したい日本語を、別の日本語表現で言い換えてみる発想を身につけています。 3. 人称代名詞を主語とする英文であれば、動詞の文型に留意した上で、正しい單文を書くことができる。 4. 従属接続詞を用いた、複文を書くことができる。	◎							○		○											
	パラグラフ・ライティング	2				2			1. 英文ライティングにおけるパラグラフの概念を理解している。 2. 200~250単語程度の英文パラグラフを書くことができる。	◎					○		○													
	エッセー・ライティング	2				2			1. パラグラフの概念を理解した上で、エッセイを書くことができる。 2. エッセイの中に、適宜文献を引用して書くことができる。 3. 1,000~1,500単語程度の英文エッセイを書くことができる。	○	◎	○	○					○	○											
	英語文学I	2			2				1. 授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の世界で応用できる。 2. 講義を通して精読、速読を進める中で、英語力の向上ができる。	○	○		◎				○	○												
	英語文学II	2				2			1. 英語文学Iで得た知識を応用させながら、この授業で取り上げた英米文学作品との比較を行ながら、更に今後の専門的な文学作品研究の世界で応用できる。 2. 講義を通して精読、速読を進める中で、英語力の向上ができる。	○	○		◎				○		○											
	英語通訳演習 I	2					2		1. 英文を前から順次「エーウー」を言わずにテンポよく訳し、完成段階では毎分70~80語台(学期初)、80~110語台(学期末)の訳出ができるようになることができる。 2. ディクテーション力：目で見る英語と耳で聴く英語のギャップを理解し、機能語の間違いを30%以内にできる。 3. 「使える英語」の量を増やすために、聴解・読解練習の後に必ず英語で要約する事を続ける。 4. 「かたまりで聞こえない部分」＝リエゾン部分=機能語部分をシャドーライン練習し、英語の「音の崩れ」に慣れ、シャドーラインのミスを10%以内にする。 5. 文章と名詞・形容詞・副詞相当句を理解し、ディクテーションのミス削減に反映させることができる。	○	◎	○	○					○	○											
	英語通訳演習 II	2					2		1. 英文を前から順次「エーウー」を言わずにテンポよく訳し、完成段階では毎分80~90語台(学期初)、90~140語台(学期末)の訳出ができるようになることができる。 2. 聽き間違いを構文力で修正し、本動詞と形容詞の過去分詞の違いを見抜ける。 3. シャドーラインのミスを5%以内にし、強弱のリズムを体得し、リエンジンが言えるようになる。 4. 品詞解析を正しく行い、次の品詞を予測できる。授業内容は以下のように計画していますが、授業の進捗状況により適宜調整します。	○	◎	○	○						○	○										
専 門 教 育 科 目	欧米文化交流研修A	2	2						1. 欧米の国び欧米系の文化圏の文化や生活について理解することができる。 2. 自国の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3. 国際化についての理解を深めることができます。 4. 実践的な英語力を身につける。	○	○		○		○		○		◎											
	アジア文化交流研修A	2	2						1. アジアの国・地域の文化や生活について理解することができる。 2. 自前の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3. 国際化についての理解を深めることができます。 4. 外国籍の運用能力を身につけることができる。 5. 異文化交流のノーカバーを身につけることができる。	○			○		○				○		◎									
	欧米文化交流研修B	2	2						1. 欧米の国び欧米系の文化圏の文化や生活について理解することができる。 2. 自前の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3. 国際化についての理解を深めることができます。 4. 生活の中で、実際に英語の運用能力を活用できる。	○	○		○		○			○		◎										
	アジア文化交流研修B	2	2						1. アジアの国・地域の文化や生活について理解することができる。 2. 自前の文化と外国の文化を相対的に観察できる。 3. 国際化についての理解を深めることができます。 4. 外国籍の運用能力を身につけることができる。 5. 異文化交流を通して、多様性への対応ができる。	○			○		○			○		◎										
	メディア英語 I	2	2						1. Study English intensively using the online CHieru system 2. Analyse areas of English that need extra study and create personalized study tracks 3. Learn to use the English Department Moodle system for use in future course work 4. Study course-related vocabulary online using the Quizlet study system	◎					○	○	○	○	○	○										
	メディア英語 II	2				2			1. Continue studying English intensively using the online CHieru system 2. Build an online portfolio for completed content from other courses 3. Explore other software, websites, and applications suitable for learning English 4. Use the English Department's SNS as a base for project work	○					○	○	○	○	◎	○										
	時事英語入門	2				2			1. Use different media as a tool for English learning 2. Study current events in English in newspapers and online 3. Prepare and present a multimedia project on a self-decided theme 4. Create an English podcast for sharing with other students	○	◎	○	○				○	○	○	○										
	応用時事英語	2					2		1. Continue to use different media as a tool for English learning 2. Continue studying current events in English in newspapers and online 3. Prepare and present a multimedia project on a self-decided theme 4. Create an English e-book as a resource for other students	○	◎	○	○				○	○	○	○										
	異文化間コミュニケーション I	2		2					1. 文化背景の異なる人に対して、開かれた心と態度を持ち続けることができる。 2. 文化背景の異なる人とのコミュニケーションに、積極的に参加できる。				◎		○			○												
	異文化間コミュニケーション II	2			2				1. 日本語を通して、日本人・日本文化・日本社会を理解することができる。 2. 身の周りにある日本語に興味を持ち、その使い方や意味を探ることができます。				○		○			○		◎										
	エリア・スタディ I	2			2				1. Gain understanding of the environment, history, society and culture of different cultures 2. Internet research 3. Prepare presentations in group work 4. Deepen their understanding of international cooperation and multiculturalism	○	○		◎	○	○	○	○	○	○	○										
	エリア・スタディ II	2				2			1. Gain an understanding of the environment, history, religions and social structures of different cultures 2. Complete comprehensive Internet research 3. Prepare and give presentations in groups 4. Deepen their understanding of international cooperation, multiculturalism, and globalization	○	○		◎	○	○	○	○	○	○	○										
	国際経済入門	2			2				1. 経済とは何か、経済学とはどんな学問か、を学ぶことができる。 2. 現在の資本主義経済がどのように発展してきたかを学習できる。 3. 日本経済がどのようにして発展してきて、現在に至っているかを学ぶことができる。 4. 現在の世界経済の特徴と、そこでの日本経済の位置について考えることができる。 5. 『国際経済入門』	◎		○	○						○											
	国際関係入門	2			2				1. 國際關係論の基礎的な知識を身につけることができる。 2. 國際政治に関する報道を理解することができる。 3. 國際情勢を眺め、論じる際に依拠する「自分なりの視座」を獲得することができる。	◎		○	○																	
	日本の歴史と文化地理 I	2	2						1. 日本の各時代の文化の特質について考察・理解し、それを説明することができる。 2. 各自の関心に基づいて選定した文化事象についてパワーポイントを用いたプレゼンテーションができる。 3. 通訳案内士試験第1次邦文試験問題の内、歴史分野に出題される事柄を把握することができる。	○		○	◎					○		○	○									
	日本の歴史と文化地理 II	2			2				1. 日本の各地域の地理・気候の特質、そこから生まれた文化について学び、それを説明することができる。 2. 各自の関心に基づいて選定した地域の特質や文化遺産、観光地、特産物等についてパワーポイントを用いたプレゼンテーションができる。 3. 通訳案内士試験第1次邦文試験問題の内、地理分野に出題される事柄を把握することができる。	○		○	◎					○		○	○									
	文化人類学	2				2			1. 「我々の文化もまた、ある時代の特定の文化が生み出した知識と技術の体系のひとつであり、絶対的・普遍的なものではない」という考え方方が理解できる。 2. 「異文化に生きる他者」との共生のあり方について、自ら考えることができます。 3. 現代社会がかかるさまざまな問題を解決するためのヒントを見つけることができる。	○		○	○		◎		○	○	○	○										

科 目	必修 / 選択	開講時期・週授業時間数						到達目標	D P 1 - 1	D P 1 - 2	D P 2 - 1	D P 3 - 1	D P 3 - 2	D P 4 - 1	D P 4 - 2	D P 4 - 3	D P 5 - 1	D P 5 - 2												
		1 年次		2 年次		3 年次																								
		前期	後期	前期	後期	前期	後期																							
キャリア形成科目	日本語A	2	4					1. 専門分野の論文やレポート等、論理的な文章を読むために必要な読み解力を習得できる。 2. 論理的な文章を読むために必要な語彙、文法の知識を習得できる。 3. 日常生活・留学生活に必要となるスキルを習得できる。										◎												
	日本語B	2	4					1. 発表を聞き取ることができる。 2. 聞き取りに際して自分の弱点を知ることができます。 3. 発表する際に必要な表現や語彙を身に付けることができる。 4. 時事問題を日本語で説明できる。										◎												
	インターンシップ	2		2				1. 社会人基礎力を向上させつつインターンシップへの参加目的を明確化し、体験に向けた必要な知識やスキルを獲得し、発揮することができる。 2. インターンシップを通じて、ビジネスの社会的役割、成果のために働くことの意味について考えることができます。 3. 本学での学びと自己の職業観を深化させ、適性を生かしたキャリアデザインについて考えることができます。	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○											
	現代ビジネス人材論	2			2			1. 日本の社会の変遷と、「仕事への移行」に際して女子大学生が直面する課題を理解できる。 2. 社会人として求められる12の基礎能力要素について、自らの成長を実感できる。 3. 自らの価値観、特性、興味を客観的に捉え、自身のキャリアプランを策定できる。 4. 訪問・面接などの求職活動や実際のビジネス・シーンに必要な基本動作ができる。	○		◎	○		○	○	○	○	○	○											
	職業選択と能力開発	2				2		1. 自己分析ができる、自分で自己診断ができる。 2. 会社が求めたい人材（雇いたい人、雇いたくない人等）に関して説明できる。 3. 会社があなたに求めるもの（グループワーク）について説明できる。 4. 地元企業見学、現場担当者との意見交換を通して仕事、社会の厳しさが説明できること。 5. 採用を勝ち取るためにキーポイント（グループワーク）について説明できる。	○		○			○	○	○	○	○	○											
	簿記入門	2			2			1. 取引と仕訳のルールから、欧米式計算法と日本式計算法の違いから、その内容が説明できる。 2. 勘定科目の意味から、現金の管理は、経理の最も重要な仕事であることを説明できること。 3. 記帳の方法は、取引内容によって記録する帳簿が違うことを理解させ、その内容が説明できる。 <small>記帳の方法は、取引内容によって記録する帳簿が違うことを理解させ、その内容が説明できる。</small>										◎												
	簿記演習	2			2			1. 期中の取引から仕訳を考え、帳簿の記入方法に基づいて、その内容が説明できる。 2. 期中の取引から適切な伝票を選択し、その内容が説明できる。 3. 決算整理事項から仕訳を考え、複式簿記の仕組みを理解し、その内容が説明できる。 4. 精算表作成から財務諸表作成まで、その内容が説明できる。										◎												
	国際ビジネス論	2			2			1. 貿易取引・対外直接投資等の国際ビジネスの基本的な仕組みおよび実務取引（例えば、企業が海外で出するとはどういうことなのか）を理解できる。 2. 国際ビジネスの動向、それに関わるリスク、金融、情報、法律、税金などの諸問題を理解できる。 3. 日本および米国のビジネス文化の特徴を相互に対比しながら、その強み・弱みを理解できる。	○		◎	○		○	○	○	○	○	○											
	航空ビジネス研究	2			2			1. 自己分析ができる、志望動機を説明できる。 2. エントリーシートや履歴書等を確実に書くことができる。 3. 日本語と英語で会員登録対策や面接に応じてできる。 4. 客室乗務員や空港職員の仕事内容が理解でき説明できる。	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○											
	国際ボランティア演習	2			2			1. 社会人基礎力を向上させつつインターンシップへの参加目的を明確化し、体験に向けた必要な知識やスキルを獲得し、発揮することができる。 2. インターンシップを通じて、国際的な視野から、持続可能な社会の在り方を理解し、その実現のために自分ができることについて考えることができます。 3. 本学での学びと自己の職業観を深化させ、適性を生かしたキャリアデザインについて考えることができます。	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○											
地域貢献・国際貢献科目	教育ボランティア演習	2			2			1. 社会人基礎力を向上させつつインターンシップへの参加目的を明確化し、体験に向けた必要な知識やスキルを獲得し、発揮することができる。 2. インターンシップを通じて、教育の社会的役割について理解できる。 3. 本学での学びと自己の職業観を深化させ、適性を生かしたキャリアデザインについて考えることができます。	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○											
	児童英語教育入門	2			2			1. 小学校学習指導要領の概要が説明できる。 2. 小学校学習指導要領外国語活動の内容が具体的に説明できる。 3. 小学校学習指導要領外国語活動と中学校学習指導要領外国語の目標の違いが説明できる。 4. 小学校における外國語（英語）導入の背景が説明できる。 5. 英語教育全体における小学校英語教育の役割が説明できる。	○	○		◎		○				○	○											
	児童英語教育研究	2			2			1. 小学校における英語活動の意義が説明できる。 2. 小学校英語活動の目標の立て方が説明できる。 3. 年間指導計画の取りのポイントが説明できる。 4. クラスルームマネジメントの活用ができる。 5. 多様なアイディア集が理解でき、いくつかを使うことができる。	○	○		○		○				◎	○											
	専門演習 I	2			2			1. 国際的視野・地域的視野に立脚した豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけることができる。 3. 現代社会の諸問題について論じ、その対応策を考えることができます。 4. 英米文化のみならず世界の文化に关心をもち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。 5. 國際社会・地域社会の諸問題に关心をもち、その解決に自らの能力を高める意欲を身につけることができる。 6. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創出することができます。 7. 國際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 8. 國際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を役立てることができます。 9. 他者と協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 10. 英語・日本語による情報収集・情報処理能力を身につけることができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
	専門演習 II	2			2			1. 国際的視野・地域的視野に立脚した豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけることができる。 3. 現代社会の諸問題について論じ、その対応策を考えることができます。 4. 英米文化のみならず世界の文化に关心をもち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。 5. 國際社会・地域社会の諸問題に关心をもち、その解決に自らの能力を高める意欲を身につけることができる。 6. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創出することができます。 7. 國際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 8. 國際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を役立てることができます。 9. 他者と協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 10. 英語・日本語による情報収集・情報処理能力を身につけることができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
演習・研究	卒業研究	4					4	1. 國際的視野・地域的視野に立脚した、3年次よりさらに豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけることができる。 3. 現代社会の諸問題について深く論じ、問題があればその対応策を十分に考えることができます。 4. 英米文化のみならず世界の文化に关心をもち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。 5. 國際社会・地域社会の諸問題に关心をもち、その解決に自らの能力を高める意欲を身につけることができる。 6. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創出することができます。 7. 國際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 8. 國際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識をこれまで以上に役立てることができます。 9. どのような相手にも躊躇なく、協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができます。 10. 英語・日本語による、より高度な情報収集・情報処理能力を身につけることができます。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
	English Extension I	1		1				1. さまざまな場面で英語を使用することに慣れる。 2. 異なる文化に关心を持つ。 3. 課題を解決するために他者と協働する姿勢を身につけています。		○		◎		○			○													
	English Extension II	1			1			1. 課題解決のために、積極的に英語でコミュニケーションを図る態度を身につけています。 2. 異なる文化を理解しようとする姿勢を身につけています。 3. 課題解決のために、他者と協働する姿勢を身につけています。		○	○	○	○		○	○	○	○	○											
	English Extension III	1				1		1. 場面に応じて、適切に英語を使用することができます。 2. 國際社会・地域社会の課題に关心を持ち、課題解決のための意欲を身につけています。 3. 他者と協働して、課題を成し遂げることができます。		○	○	○	○	○	○		○	○	○											
	English Extension IV	1				1	1. 課題解決のために、効果的に英語を使用することができます。 2. 國際社会の一員として、責任ある役割を果たそうとする態度を身につけています。 3. 他者の価値観や立場を尊重し、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけています。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												

英語学科

学位授与の方針 (DP)

DP 1 【知識・理解】
1 - 1) 國際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
1 - 2) 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている。

DP 2 【思考・判断】
2 - 1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。

DP 3 【関心・意欲】
3 - 1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。

DP 4 【態度】
4 - 1) グローバル社会にあって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
4 - 2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
4 - 3) 自分のもの力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。

DP 5 【技能・表現】
5 - 1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
5 - 2) 情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

1. 人間への深い理解と環境や現代社会文化への幅広い知識の基盤を形成し、専門教育の領域にとどまらない探求心を養う総合人間科学科目と「専門基礎科目」「専門基幹科目」
「専門展開科目」「演習・研究」で構成される専門教育科目を設置する。

2. 「専門基礎科目」には、英語に関する全科目を必修とし、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎固めになる科目を配置する。

3. 「専門基幹科目」には、異文化理解を深め、英語・日本(語)などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う科目を配置する。

4. 「専門展開科目」には、現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける科目を配置する。

5. 「演習・研究」には、大学での学びに必要なスキルと自主的思考力を修得するための科目と、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。

6. 高い英語運用能力と国際感覚を養うために、英語資格取得に関する選択科目と海外研修に関わる選択科目を配置する。

7. キャリア形成に関しては、キャリア教育の基礎を学ぶ科目、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目を配置する。

科 目	選 択	～高 英一 語種 ～免	～中 英一 語種 ～免	開講時期・週授業時間数				到達目標	D P 1 - 1	D P 1 - 2	D P 2 - 1	D P 3 - 1	D P 4 - 1	D P 4 - 2	D P 4 - 3	D P 5 - 1	D P 5 - 2										
				1 年次		2 年次																					
				前期	後期	前期	後期																				
教職に 関する 科 目	教職概論	2	2	2		2			1. 教職の意義や教師の職務内容、社会的責任などについて説明することができる。 2. 教職としての教師に求められる資質、能力について説明することができる。 3. 教員養成の歴史、現状、現職研修の動向について説明することができる。 4. 教職をめぐる改革動向について説明することができる。	◎						○											
	教育原理	2	2	2		2			1. 教育の理念や思想、原理などについて基本的な事項を説明することができる。 2. 学校教育の歴史や機能について基本的な事項を説明することができる。 3. 現代教育の課題や改革動向について説明することができる。	◎						○											
	教育心理学	2	2	2		2			・学習のメカニズム（どのように人は発達して、学習し、考え、記憶するのか）の過程を説明できる ・学習活動にかかる原因帰属や動機づけのタイプを説明できる ・児童・生徒との関わり方のタイプや人格発達の過程を説明できる ・授業形態や評価法を説明できる	◎						○	○										
	教育社会学	2	2	2		2			1. 子どもの発達を社会的・文化的条件から理解することができる。 2. 現代社会における子どもの発達に関するトピックスを学び、概要を説明することができる。 3. 子どもの発達を説明する社会学の基礎的概念を活用することができる。	◎		○															
	教育課程論	2	2	2		2			1. 教育課程の意義、編成の原理と方法などの基本的事項について説明することができる。 2. 学習指導要領の内容と特徴について説明することができる。 3. 教育課程改革論など教育課程の現状や課題について説明することができる。	◎						○											
	特別活動論及び 総合的な学習の時間の指導法	2	2	2		2			1. 特別活動の特質や課題について理解し説明することができる。 2. 学習指導要領における特別活動の位置づけや内容を理解し説明することができる。 3. 学校・子どもの実態と特別活動における教師の指導性について理解し説明することができる。 4. 特別活動に関わる実践記録を分析することができる。	◎						○											
	特別支援教育論	1	1	1		1			①特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解している。 ②特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する学校制度を含む教育課程や支援の方を理解している。 ③特別な教育のニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。			◎					○	○									
	教育方法論	2	2	2		2			1. 教育実践の原理や課題などについて説明することができる。 2. 授業の原理や方法を理解し、学習指導案を書くことができる。 3. 実践記録の分析方法を身につけ、分析することができる。 4. 授業改革の課題と動向について説明することができる。	◎						◎											
	英語教科教育法 I	2	2	2		2			1. 英語教育について理論と実践の両面から包括的な理解ができる。 2. 小学校外国語活動、中学校外国語、高等学校外国語の学習指導要領の変遷を理解し、新しい学習指導要領の概要を説明できる。 3. 異文化理解や国際理解にまで視野を広げた考え方ができる。	◎						○											
	英語教科教育法 II	2	2	2		2			1. 英語教師の役割について説明ができる。 2. 基本と学習環境の大切さについて説明ができる。 3. 発音指導の方法について説明ができる。 4. スピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの指導法について、理論面と実践面の両面で、重要なポイントが説明できる。 5. 4技能統合指導法について、理論面と実践面の両面で、重要なポイントが説明できる。	◎						○											
	英語教科教育法 III	2	2	2		2			1. 英語教師の役割について説明ができる。 2. 教材と学習環境の大切さについて説明ができる。 3. 教科書本文の使い方について説明ができる。 4. 多様な学習者を受け止め、その多様性への対応の大切さについて説明ができる。 5. 学習者との信頼関係づくりの大切さについて説明ができる。 6. 教師としての自分の言動を振り返るポイントについて説明ができる。 7. ティーム・ディベロップメントの大切さと実現方法について説明ができる。 8. アーティカル・リレーションの大切さと実現方法について説明ができる。 9. 評価の位置づけ・重要性と、テスト作成のポイントについて説明ができる。 10. 自律的学習者を育てる方法について説明ができる。 11. 学習支援者としての心構えについて説明ができる。							◎		○									
	英語教科教育法 IV	2	2	2		2			1. 各種指導技術の基本が理解できる。 2. 指導案についての基本を理解し、作成することができる。 3. 目標に沿った授業を計画し、それを実施することができる。							◎		○									
	英語教科教育法 V	2	2	2		2			1. 現場で使用予定の1～3学年の教科書の内容を把握できる。 2. 同教科書に関しては十分な教材研究ができる。 3. 同教科書の内容に関する英語の音読みがスムーズにできる。 4. 現場でスムーズな音読みを通して生徒に迷惑がかかるない授業ができる。 5. 英語だけでなく、実習生として率先した生徒指導ができる。		○					◎		○									
	道徳教育の理論と実践	2	2	2		2			(1) 道徳と実践にかかわる課題を理解することができる。 (2) 学習指導要領における道徳教育の位置づけを説明することができる。 (3) 学習指導案の基本的な構造を理解することができる。 (4) 道徳の授業実践にかかわる基本的な知識を習得し、模擬授業の形で実践することができる。	◎		○	○					○									
	生徒・進路指導論	2	2	2		2			1. 生徒指導の意義・内容を説明できる。 2. 子ども理解の内容・方法を説明できる。 3. 問題行動・トラブル等への対応ができる。 4. 進路指導・キャリア教育の意義・内容を説明できる。			○		○		○		○									
	教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2		2			1. 生徒と教員間のコミュニケーションについて理解を深め、カウンセリングの技術を使なうことができる。 2. 学校内外で発生する子どもに関する社会的問題について理解を深めることができる。 3. 子どもの問題に対して具体的な援助計画を立てられるようになる。			○		○	◎	○											
	教育実習事前事後指導	1	1	1		←	→		1. 指導者の指導を受けすることで教育現場での留意事項を確かめながら実習への心の準備ができる。 2. 教育実習の報告を聞くことで、実習の成果を高めるための準備をすることができる。 3. 中学・高等学校の校長・教頭経験者の講話を聴いて、自らの実習に活かすことができる。 4. 中・高の現職教諭の話を聴いたり、実践的な授業を受けたりして、自らの実習に活かすことができる。 5. 模擬授業による疑似体験を通して、授業の進め方を理解し教育実習に向けた備えをすることができる。 6. 教育実習体験を通して現場の体験を分かりやすくまとめて語ることができる。							○		○									
	教育実習 I	2	2					←	→	1. 実習校の実状に応じて実習内容を計画することができる。 2. 実習校の重点的な教育方針・目標・生徒指導方針等あるいは実習期間中の行事等を考慮して職務内容を果たすことができる。 3. 授業については、実習機会のない科目・単元について可能な限り講話・資料で学習し、実習校における教育活動全体の概要を理解することができる。		○			◎	○	○										
	教育実習 II	4	4	4		←	→		・実習校の教員の指導に従って学習指導案やその他の計画を作成することができる。 ・実習校の教育方針を尊重しながら、実習生として自らを律し行動することができる。 ・実習校の教育目標や指導方針・学校行事等に配慮しながら実習生としての責務を果たすことができる。 ・英語以外の授業も可能な限り参観し、実習校の教育活動全体を把握することができる。		○			○	○	○	○										
	教職実践演習 (中・高)	2	2	2		2			1. 教職課程での学びを再点検し、自らに残された課題を探ることができます。 2. 教師として求められる資格・能力を具体的に学校場面に結び付けて理解し伸ばすことができる。 3. 信頼される学校づくりに貢献する教師の在り方を理解し具体的な方策を探ることができます。 4. 生徒理解に基づいた教育活動を展開することができます。 5. 授業の計画・実施・評価に関する知識と実践力を伸ばすことができる。 6. 教師として自律的な成長に必要なリソースを探り活用することができる。	○		○				○											

英語学科

学位授与の方針 (D P)

DP 1 【知識・理解】

1 - 1) 國際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。

1 - 2) 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている。

DP 2 【思考・判断】

2 - 1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。

DP 3 【関心・意欲】

3 - 1) 英米文化のみならず世界の文化に关心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。

DP 4 【態度】

4 - 1) グローバル社会にあって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。

4 - 2) 國際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。

4 - 3) 自分のもつ能力や知識を國際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。

DP 5 【技能・表現】

5 - 1) 他人の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。

5 - 2) 情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (C P)

1. 人間への深い理解と環境や現代社会文化への幅広い知識の基盤を形成し、専門教育の領域にとどまらない探求心を養う総合人間科学科目と「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」「演習・研究」で構成される専門教育科目を設置する。

2. 「専門基礎科目」には、英語に関する全科目を必修とし、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎固めになる科目を配置する。

3. 「専門基幹科目」には、異文化理解を深め、英語・日本語などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う科目を配置する。

4. 「専門展開科目」には、現代社会の実態を学術的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける科目を配置する。

5. 「演習・研究」には、大学での学びに必要なスキルと自主的思考力を修得するための科目と、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。

6. 高い英語運用能力と国際感覚を養うために、英語資格取得に関する選択科目と海外研修に関わる選択科目を配置する。

7. キャリア形成に関しては、キャリア教育の基礎を学ぶ科目、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目を配置する。

科 目 日 本 語 教 員 養 成 に 関 す る 科 目	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P 1 - 1	D P 1 - 2	D P 2 - 1	D P 3 - 1	D P 4 - 1	D P 4 - 2	D P 4 - 3	D P 5 - 1	D P 5 - 2											
		1年次		2年次		3年次		4年次																						
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																					
日本語学概論	2		2							1. 豊かで鋭い言語感覚を獲得することができる。 2. 自己のことはを科学的に観察することができます。 3. 日本語学の基礎的知識を修得することができます。 4. 文化理解への視野が広がり、国際人として活躍することができます。	◎			○																
日本語教育方法論 I	2	2								1. 外国語として日本語を教える教師の資質について説明ができる。 2. スピーチングの指導法について、理論面と実践面の両面で、重要なポイントが説明できる。 3. リスニングの指導法について、理論面と実践面の両面で、重要なポイントが説明できる。 4. ライティングの指導法について、理論面と実践面の両面で、重要なポイントが説明できる。	◎			○																
日本語教育方法論 II	2		2							1. 日本語教師の役割が理解できる。 2. 導入・文法説明・発音指導の方法が理解できる。 3. 教材と学習環境の大切さが理解できる。 4. 多様な学習者を受け止め、その多様性への対応の大切さが理解できる。 5. 学習者との信頼関係づくりの大切さが理解できる。 6. 教師としての自分の言動を振り返るポイントが理解できる。 7. 学習支援者としての心構えが理解できる。	◎			○																
日本語教育方法論演習 I	2			2						1. 模擬授業体験を通じた学びに基づき、教える際に気をつけるべきポイントを感知できる。 2. 教師としての自分の言動を意識化できる。 3. 座学だけでなく自分やクラスメートの実践から学ぶことができる。				◎	○	○														
日本語教育方法論演習 II	2				2					1. 教材の分析ができる。 2. 教案を作成し、実際に授業をすることができる。 3. 授業を客観的かつ多角的に観察・分析することができます。				◎	○	○														
日本語教育実習	4					←	→			1. 実習先の学習者のニーズを満たす寸指教案が作成できる。 2. 学習者にとって必要な日本語が教授できる。 3. 日本語教育機関と学習者の多様性が理解でき、それらに適切な対応をとることができる。 4. 仲間と協力して実習先の指導教員や学生に満足してもらえる実習を行うことができる。							◎	○												

觀光文化學科

学位授与の方針 (D.P.)

- D1 | 知識・理解

 - 1-1) グローバル化、情報化が進む社会に対する基礎的な知識を修得している。
 - 1-2) ソーシャルマネジメント及び社会企画で役立つ英語および中国語を修得している。
 - 1-3) 異文化についての知識と理解を修得している。
 - 1-4) ソーシャル及び地域社会に関わる専門的知識を修得している。

D2 | 思考・判断

 - 2-1) 現代社会の実態と課題を学際的な視点で考えられることができる。
 - 2-2) 現代社会に様々な課題について、課題解決に向けて行動し、提案できる。

D3 | 品性・態度

 - 3-1) 地域や国内外の課題への关心と貢献する意欲をもっている。

D4 | 作業態度

- D P 4 【態度】
 4-1) ホスピタリティのこころを身に付けています。
 4-2) 多様な価値観を共有し、協働することができる。

D P 5 【技能・表現】
 5-1) キャリア形成に必要なコミュニケーション能力を身に付けています。
 5-2) サービス及び地域社会に関する課題解決に向けて専門的技能を身に付けています。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

1. 観光学・地球化学科は、専門的な知識、理論と思考力を育成するために、教育教材科目を基礎とし、専門教育科目の「異文化に関する科目」、「諺学に関する科目」、「アーティストに関する科目」、「地域活性化に関する科目」、「ソーシャルデザインに関する科目」、「演習研究科目」の科目群で構成する。
 2. 「異文化理解に関する科目」では、異文化や多様な価値観を理解する能力を育成する。
 3. 「諺学に関する科目」では、英語や中国語などのコミュニケーション能力を向上させたため、基礎から応用へと段階的に修得できる科目で構成する。
 4. 「アーティストに関する科目」では、オブジェクトアートによるクリエイション能力を向上させたため、基礎から応用まで専門的な知識の修得と課題への対応能力を養う科目で構成する。
 5. 「地域活性化に関する科目」では、地図表現・会話練習を通して、地域社会に貢献できる能力を育成する。
 6. 「ピネスに関する科目」では、ピネスや地域活性化に関する演習とおこなって、課題解決能力を育成する。

科 目	必修 選択	開講時期・授業実行期間				到達目標	D P 1-1 1-2 1-3 1-4 2-1 2-2 3-1 4-1 4-2 5-1 5-2	備考			
		1 年次		2 年次							
		前期	後期	前期	後期						
		前期	後期	前期	後期						
に関する科目	経営に関する科目	簿記入門	2	2							
	ビジネスと法	▲2		2							
	ビジネスファイナンス	2			2						
	国際ビジネス論	2			2						
経済に関する科目	日本経済入門	2	2								
	国際関係入門	2	2								
	国際経済入門	2		2							
	フィールドワーク入門	2	2								
地域活性化に関する科目	観光フィールドワーク	2		2							
	イベント・テーマパーク論	2			2						
	地域活性化研究	2			2						
	タウンマネジメント論	2			2						
英語に関する能力育成科目	地域観光資源開発論	2				2					
	ニューターリズム論	2			2						
	基礎英語	1	2								
	応用英語	1		2							
外国語に関する能力育成科目	入門英会話	1	2								
	英会話	1		2							
	初級英文講読	1		2							
	中級英文講読	1			2						
中国語に関する能力育成科目	マルチメディア・イングリッシュ基礎	1		2							
	マルチメディア・イングリッシュ応用	1			2						
	中級英会話	1		2							
	上級英会話	1			2						
中国語に関する能力育成科目	ビジネス英語入門	2			2						
	入門TOEIC演習	2			2						
	応用TOEIC演習	2			2						
	入門英語通訳ガイド演習	2			2						
中国語に関する能力育成科目	応用英語通訳ガイド演習	2				2					
	ツーリズム英語	2			2						
	エアライン英語	2			2						
	入門中國語会話	□1	2								
中国語に関する能力育成科目	初級中國語会話	□1		2							
	実用中國語会話	□1	2								
	コミュニケーション中国語	□1		2							

科 目		必修	選択	開講時期・授業実行段数				到達目標	D P 1-1 1-2 1-3 1-4 D P 2-1 2-2 3-1 4-1 D P 4-2 5-1 5-2	備考			
				1 年次		2 年次							
				前期	後期	前期	後期						
専門教育科目	語に関する能力育成科目		□1		2			1 中国語の社会と文化をスピーチすることができます。 2 中国語でやや複雑な文章を理解することができます。 3 中国語文法の向上を獲得できます。	○ ○ ○				
			□1		2			1 中国語の基本文法をしっかりと把握できる。 2 各種の祈り言葉を正確に覚える。 3 各種の会話練習、ジェスチャーゲーム、グループタスク楽しく行うことができる。 4 中国語での会話コミュニケーション力を身に付ける。	○ ○ ○	○			
			□1			2		1 中国語文法の基本項目を習得できる。 2 文法や文法的な文章を理解できる。 3 身体表現による会話のコラボレーションテクストにおいて活用できるよう中國語の会話を覚える。	○ ○ ○	○			
			□1			2		1 中国語文法的基本問題を回答できる。 2 文法や文法的な文章を理解できる。 3 中国語の分なる読み方、表現力、翻訳力に付けることができる。 4 話題実施における中国語発音問題の基礎問題を回答できる。	○ ○ ○	○			
			2			2		1 フィーリングや中国語を習得することができる。 2 中国のスピーチを理解することができる。 3 中国人観光客のおもてなしに必須の知識を勉強することができる。	○ ○ ○	○			
			2				2	1 運用ガイドが必要な語学能力を高めることができます。 2 日中両国の観光文化の相違を理解することができます。 3 中国語でのコミュニケーション能力を身に付けることができます。	○ ○ ○	○ ○ ○			
異文化交流に関する科目	異文化交流研修A	▲2	2					1 欧米の国々の文化や生活について理解することができます。 2 自国の文化と外国の文化を対的に観察できる。 3 国際化について理解を探る。 4 実践的な取組方針を理解する。	○ ○ ○	○			
		▲2	2					1 アジアの国々の文化や生活について理解することができます。 2 自国の文化と外国の文化を対的に観察できる。 3 国際化について理解を探ることができます。 4 外国語の運用能力を身につけることができる。 5 異文化交流のノハウを身につけることができる。	○ ○ ○	○			
		▲2	2					1 欧米の国々の文化や生活について理解することができます。 2 自国の文化と外国の文化を対的に観察できる。 3 国際化について理解を探ることができます。 4 生活の中で、実際に英語の運用能力を活用できる。	○ ○ ○	○			
		▲2	2					1 アジアの国々の文化や生活について理解することができます。 2 自国の文化と外国の文化を対的に観察できる。 3 国際化について理解を探ることができます。 4 外国語の運用能力を身につけることができる。 5 異文化交流を通じて、多様性への対応ができる。	○ ○ ○	○			
		2	2					1 現代ドイツの生活と観光地について知識や理解を深めることができます。 2 基礎的なドイツ語に触れ、ドイツ語検定5級の合格を目指すことができる。 3 日独でなぜさまざまな違いがあるのかを考えることができます。	○ ○ ○	○			
		2	2					西欧の観光地のあり方として、域内や各国内の全体的な特徴と各観光地の取り組みについて、観光学の基礎的な知識を活かしながら理解することができます。	○ ○ ○	○			
		2	2					東欧の観光地のあり方として、域内や各国内の全体的な特徴と各観光地の取り組みについて、観光学の基礎的な知識を活かしながら理解することができます。	○ ○ ○	○			
		2	2					1 東アジア諸国における国際観光の現状を把握することができます。 2 東アジア諸国と日本との観光交流の歴史と現状を把握することができます。 3 東アジア諸国における歴史と土人情を把握することができます。 4 東アジア諸国における歴史と土人情を把握することができます。	○ ○ ○	○			
		2	2					1 東アジア以外の国における国際観光の現状を把握することができます。 2 東アジア以外の国と日本との観光交流の歴史と現状を把握することができます。 3 東アジア以外の国と日本との観光交流の歴史と現状を把握することができます。 4 東アジア以外の国と日本との観光交流の歴史と現状を把握することができます。	○ ○ ○	○			
		2	2					1 現代英米社会が抱える問題を理解することができます。 2 映画の中どのような英米文化が現れているのかが分析できます。 3 英米文化の特徴を認識できます。	○ ○ ○	○			
キャリア教育科目	キャリアデザイン論 I	2				2		1 キャリアデザイナーは何かを理解することができます。 2 キャリアデザインのための自己理解を身に付けることができます。 3 人生をどのように歩んでいくかの考え方を身につけることができます。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	インターンシップ	2				2		1 勤務経験を通して、企業等の社会的実際、社会の成り立ち、働くことの意味、責任、チームワークの重要性などを理解できる。 2 自分の職業意識を醸成したり高めたりすることができます。 3 将来の進路につながりうる実習先の企業等の活動内容、産業の動向を理解できる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	キャリアデザイン論 II	2				2		1 キャリアデザイナーについて、理論と実践の視点から理解ができる。 2 自己理解・仕事や職業の基本的な考え方方が理解できる。 3 仕事に対するやめる必要となる能力を理解できる。 4 ワークライフバランス、生産学習などの取り組みを理解することができます。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
留学生対応科目	初級日本語	■I	2					1 初級的な日本語の四技能（読み、書く、話す、聞く）を身につけることができる。 2 初歩的な日本語（外国语）の学習を通して、物事を若干異なる角から見たり、考え方を少し変めることができます。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	中級日本語	■I	2					1 やや高度な日本語の四技能（読み、書く、話す、聞く）を身につけることができる。 2 やや高度な日本語（外国语）の学習を通して、物事を異なる角から見たり、考え方をより深めることができます。 3 日本語を用いておもしろいことに挑戦できる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	上級日本語	■I	2					1 高度な日本語の四技能（読み、書く、話す、聞く）を身につけることができる。 2 高度な日本語（外国语）の学習を通して、多角的に物事を見つめたり、考え方をより深めることができます。 3 日本語を用いて意欲のあるおもしろいことに挑戦できる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	応用日本語	■I	2					1 翻訳的な日本語の四技能（読み、書く、話す、聞く）を身につけることができる。 2 翻訳的な日本語（外国语）の学習を通して、一層多角的に物事を見つめたり、考え方をより深めることができます。 3 日本語を用いて意欲深いおもしろいことに挑戦できる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
演習・研究科目	ワーリズム演習	1		2				1 論理的思考の基礎を得ができる。 2 ワーリズムに関する問題点の抽出ができる。 3 ワーリズムに関する確実な情報収集ができる。 4 効果的なプレゼンテーションの基礎を得ができる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	ビジネス演習	1			2			1 ビジネスや社会で多用される基礎的知識・スキルを修得している。 2 ビジネスや社会で必要な論理的に考え説明する基本的な能力を修得している。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	地域活性化演習	1				2		1 地域の実態を知ることにより、地域が抱える課題の存在に気づくことができる。 2 地域活性化の意義を知ることができます。 3 事例研究を通して各地の活性化の手法を学ぶことができる。 4 身近な地域を選び、その活性化に取り組むことができる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	専門演習 I	1				2		1 自分の所持するゼミのテーマの先行研究の概要を理解している。 2 対象研究を通じて各地の活性化の手法を学ぶことができる。 3 研究テーマにふさわしい調査方法を選択してそれを正しく活用ができる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	専門演習 II	1				2		1 対象データと対象データの分析と活用ができる。 2 所属するゼミのテーマと関係の深い先行研究の概要が理解できる。 3 論文執筆にあたり適切な調査方法を選択してそれを正しく活用ができる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			
	卒業研究	4				4		1 問題意識や研究テーマなどを大切に明確にしながら、その内容について意見交換・討論する。 2 研究論文を作成について、研究設計立案できる。 3 論理的な考え方ができる、説得的な論考ができる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			

助産別科

学位授与の方針 (DP)

DP 1 【知識・理解】

- 1・1) 周産期のカタルアに必要な基礎的知識を修得している。
- 1・2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期における女性の健康支援に関する知識を修得している。
- 1・3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。

DP 2 【思考・判断】

- 2・1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
- 2・2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。

DP 3 【聞く・意見】

- 3・1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。

DP 4 【態度】

- 4・1) 母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができる。

DP 5 【技術・表現】

- 5・1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

1. 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。

2. 助産の理論領域は助産実践の基になる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につなげる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。

3. 基礎科目は、リプロダクティブ・ヘルスの考え方を核にして、性と生殖に関する女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関する女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。

4. 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイタル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイタル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常危険に関する判断ができる、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。

5. 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイタル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。

6. 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技術の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

授業科目の名称			単位数	必修	選択	開講時期 前期 後期	到達目標								
助産の理論領域	基礎科目	助産の実践領域					D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
		1	1		2	◎	○	○		○					
		1	1		2	1. 助産の基本概念と助産に関する理論の概要について説明できる。 2. 日本における助産師の責務と役割、法的位置づけについて説明できる。 3. リプロダクティブ・ヘルスの基盤となる考え方について説明できる。 4. 成人期の身体的・心的問題を理解し対処法を説明できる。 5. 妊娠・出産・産褥の特徴と運動機能を説明できる。 6. 助産過程の枠組みと展開について説明できる。 7. 助産師教育や助産の方向性について考えることができる。	◎	○	○		○				
		1	1		2	1. 女女のリプロダクションに関する形態・機能、性と生殖に関連する疾患、その対応について説明できる。 2. リプロダクションに必要な医療機器の操作や検査およびデータの判断ができる。	◎	○	○	○	○				
		1	1		2	1. 念春期・青年期の身体的変化および生理的課題を捉え能く説明できる。 2. 青年期に特徴的な様式や問題を説明できる。 3. 成人期の身体的・心的問題を理解し対処法を説明できる。 4. 成人期における精神的問題を理解し対処法を説明できる。 5. 中年期・老年期・更年期における身体的問題を理解し対処法を説明できる。 6. マタニティサイタルにおける母親・父親の心理的特徴が説明できる。 7. 子育て関係・父子関係を築くための役割剤について説明できる。	○	◎	○	○	○				
		1	1		2	1. 助産学領域における研究的視野を養うために必要な研究の基本的方法を説明できる。 2. 文獻のクリティカルができる。 3. 自己の継続受け持ち妊産婦のケアについて研究的に取り組み、文献をもとに考察を深め発表できる。	○		○	○	○				
		1	1		2	1. マタニティサイタル各期における健康教育に必要な母子の栄養と食事について説明することができます。 2. 妊娠期・乳児期の病態疾患について説明することができます。 3. 動児期・更年期における健康教育に必要な栄養管理について説明することができます。	○	◎	○	○					
		1	1		2	1. キリスト教的人間観と世界觀を理解し説明できる。 2. 生産医療・船児診断と生産科学に連携した倫理論に対する考え方を理解できる。 3. 妊娠期の不妊相談におけるカウンセリングの対応を説明できる。 4. 周産期における子どもたちの死や離婚の対応に応じる親の支援について説明できる。 5. 総論的見地からみた助産師の役割的重要性を説明できる。	○				◎				
		1	1		4	1. 助産師に必要な妊婦の健康診査と援助の目的・必要性・意義を説明することができる。 2. 妊娠期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を修得することができる。 3. 妊娠期のフィジカルアセスメントに基づき、妊婦に必要なケアや健康教育を実施するための知識・技術・態度がわかる。	○		◎			○	○		
助産の実践領域	専門科目	助産の実践領域	1	1		4	1. 産婦の形態機能に基づいた産婦の身体的・心理的特性を説明することができる。 2. 分娩期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を修得することができる。 3. 分娩期のフィジカルアセスメントに基づき、分娩進行状態に応じた産婦に必要なケアおよび健康教育を実施するための知識・技術・態度がわかる。	○		○	○		○	○	
			1	1		4	1. 産婦の形態機能に基づいた産婦の身体的・心理的特性を説明することができる。 2. 分娩期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を修得することができる。 3. 分娩期のフィジカルアセスメントに基づき、分娩進行状態に応じた産婦に必要なケアおよび健康教育を実施するための知識・技術・態度がわかる。	○		○	○		○	○	
			1	1		4	1. 助産師に必要な産婦の健康診査と援助の目的・必要性・意義を説明することができる。 2. 新生児・乳児のフィジカルアセスメントによる必要な診査法との実際を説明できる。 3. 新生児・乳児に起る異常と疾患およびその対応法を説明できる。 4. 新生児の乳児のケアおよび対応法を説明できる。 5. ハイリスク新生児の病態について説明できる。 6. NICUにおける児や家族への対応について説明できる。 7. 乳幼児の成長・発達過程について説明できる。	○		○	○		○	○	
			1	1		2	1. 周産期（妊娠・分娩・産褥各期）の異常および疾患、その対応について説明できる。 2. フィジカルアセスメントに基づく緊急時の対応法や、他職種との連携を説明できる。 3. 周産期に活用する医療機器の操作や検査、データの読みがき。	○			◎				
			1	1		2	1. 周産期（妊娠・分娩・産褥各期）の異常および疾患、その対応について説明できる。 2. フィジカルアセスメントに基づく緊急時の対応法や、他職種との連携を説明できる。 3. 周産期に活用する医療機器の操作や検査、データの読みがき。	○			○			○	

助産別科

学位授与の方針（DP）

DP 1 【知識・理解】

- 1・1) 周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。
- 1・2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
- 1・3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。

DP 2 【思考・判断】

- 2・1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
- 2・2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。

DP 3 【聞く・意欲】

- 3・1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。

DP 4 【態度】

- 4・1) 保育チームの一員として責任を持つ行動ができる。

DP 5 【技術・表現】

- 5・1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

1. 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。

2. 助産の理論領域は助産実践の基になる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につなげる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。

3. 基礎科目は、リブロディケイブルスの考え方を核にして、性と生殖に関する女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした周産期の助産アドバイザリーによる基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に応じて女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。

4. 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱にに関する判断ができる、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。

5. 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。

6. 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技術の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

専門科目	授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 選択授業時間数 前期 後期	到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
							1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	4-1	5-1	
							◎	○	○	○	○	○	○	○	
助産の実践領域	助産診断・ケア学VI(健康教育演習)	2	2	4	4	1. マタニティサイクル各期(妊娠・分娩・産褥期)における助産判断に基づき、対象に必要な健康教育を実施できる。 2. 各期学級を経験し、対象に応じた健康教育の企画・運営ができる。 3. 念産期の保健活動を経験し、対象に応じた健康教育の企画・運営ができる。 4. 女性のライフサイクル各期に適切な受胎調査の方法を説明できる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
	助産診断・ケア学VII(助産過程演習)	2	2	2	2	1. 助産過程の基本的な考え方・助産過程のプロセスを説明できる。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児の事例を通して対象をアセスメントし、助産診断・ケア計画を立案する助産過程を開拓できる。 3. 妊娠・分娩・産褥の各段階で問題が生じた場合の対応について理解できる。 4. 生け持ち事例の助産過程について評議し、評価することができる。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
	女性の健康支援論	1	1		2	1. 性感染症とヘルスプロモーションについて説明できる。 2. 性や各期の健康問題とケアについて説明できる。 3. 性や各期の健康問題に応じた家族計画の動向・家族計画指導の問題点及び対応について説明できる。 4. 現代女性の特有の支援をする健康問題を理解し、基本的な支援について説明できる。 5. 性教育の必要と対象に応じた性教育の内容について説明できる。 6. 性の概念を構成するソリューム・シンクレーティブアリティについて説明できる。 7. 性格的なソリュームアリティとソリュームの展開について説明できる。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
	助産管理学	2	2	2	4	1. 助産管理の基礎知識と管理手法について説明できる。 2. 健康管理の実践的範囲と管理手法について説明できる。 3. 職場での助産の業務と職場における助産業務管理の方法を説明できる。 4. 院内勤務・助産外来等・病院における助産ケア提供体制の取り組みについて説明できる。 5. 助産業務システムの構成・連携方法について説明できる。 6. 助産業務におけるスクールマネジメントについて説明できる。 7. 看護時の助産に対する助産管理について説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地域母子保健	1	1		4	1. 地域母子保健をめぐる現状と課題を説明できる。 2. 地域母子保健の仕組みと助産の新たな役割を説明できる。 3. 国際化時代の地域母子保健のあり方を説明できる。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
	総合看護学	1	1	1	2	1. 看護理論の変遷や考え方について説明できる。 2. 看護の概念を明確にし、その機能や役割・倫理規定について説明できる。 3. 自らの看護実践を科学的に評価するとともに、看護過程を開拓することができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
支援科目	母性の運動科学	1	1		2	1. 生理機能の循環・運動が母体と胎児に及ぼす影響について説明できる。 2. 妊娠期の女性に適した運動の種類や具体的な実施方法について説明できる。 3. 運動の安全管理基準について説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	子育て支援論	1	1	1	2	1. 親役割と「親になる」ための適応・成長過程を説明することができる。 2. 親力・育児力の向上させるための親育の支援について説明することができる。 3. 親子のコミュニケーションを通じて子育て関係を育む助産師の役割について説明することができる。 4. 北九州大学子育て支援の実践を学ぶ。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
実習	助産学基礎実習	4	4		実習	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の身体・心理・社会的変化を説明できる。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の健康診査が指導者と共に実施できる。 3. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象に助産過程展開および基本的な助産技術が実施できる。 4. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象に必要な保健指導が指導者と共に実施できる。 5. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象に対して異常の発生予測及び発生時の判断と必要な処置を説明できる。 6. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の診断に必要な検査・位置を説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	助産学実習 I (正常)	5	5		実習	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の身体・心理・社会的変化を説明できる。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の健康診査が実施できる。 3. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象に助産過程展開および基本的な助産技術が実施できる。 4. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象に必要な保健指導が可能である。 5. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の診断に必要な検査および方法について説明し、データの判読ができる。 6. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象に対して必要な処置が指導者と共に実施できる。 7. 正常の新生児測定及び発生時の判断と必要な処置が指導者と共にできる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	助産学実習 II (正常逸脱)	3	3		実習	1. 异常経過をきたす妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の身体・心理・社会的変化を説明できる。 2. 异常経過をきたす妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象に助産技術の習得および助産過程展開が指導者とともに実施できる。 3. 异常経過をきたす妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象に助産過程展開および基本的な助産技術が指導者とともに実施できる。 4. 妊娠・分娩・産褥・新生児期に起くる異常状態を理解し、緊急度や優先度に応じた対応が指導者とともに実施できる。 5. NICUにおける異常新生児の観察と治療法を説明できる。 6. NICUにおける異常新生児の検査・位置を説明できる。 7. NICUにおける異常新生児の母親および家族への支援と産褥経過をふまえた保健指導が説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	助産管理実習	1	1		実習	1. 地域保健所における助産業務管理・運営について説明できる。 2. 地域所の助産業務管理・運営について説明できる。 3. 助産業務に必要な法令との運用について説明できる。 4. 研究および異常発育発見の助産業務における緊急対応の実績を説明できる。 5. 地域の商務管理システムと連携方法を説明できる。 6. 地域における母子接種活動の実績を説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2018年度 短大一般教育カリキュラムマップ

		単位数		短期大学部の学位授与の方針(DP)					
				DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
		必修	選択	1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
キリスト教教育	キリスト教学 I	2		◎					
	キリスト教学 II	2		◎					
初年次教育	初年次セミナー	1		◎					
女性と健康	運動と健康	1		◎					○
	スポーツ実技	1		○					◎
	女性とマナー	*1		◎				○	
	女性史	*1		◎					
	共生社会とジェンダー	*1		◎					
	女性と装いの文化	*1		◎				○	
基礎教養	心理学	2		◎					
	文学	2		◎					
	日本国憲法	2		◎					
	比較文化と国際理解	2		◎				○	
	経済学入門	2		◎					
	生活の中の環境学	2		◎					
アカデミックスキル	メディアリテラシー	2		◎					○
	情報処理入門	2		◎					○
	英会話入門	1		◎					○
	こどもとふれあう英会話 I	1		◎	○				○
	こどもとふれあう英会話 II	1		◎	○				○
	ハングル入門	1		◎					○
地域創生	日本語表現法	1		◎					○
	北九州の過去・現在・未来	1		◎					
	北九州の技と文化	1		◎					
キャリア形成支援	キャリア開発	1		◎					
	実践キャリアプランニング	1		◎					

※ *は1単位以上必修選択

保育科

学位授与の方針 (DP)

保育科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に短期大学士（保育学）の学位を授与します。

DP 1 【知識・理解】

- 1 - 1) キリスト教精神を基盤に、教養と知識を身につけている。
- 1 - 2) 保育者に必要な専門分野の学問知識を修得している。

DP 2 【思考・判断】

- 2 - 1) 個々の子どもを深くとらえ、保育としての適切な対応を考えることができる。

DP 3 【関心・意欲】

- 3 - 1) 子どものあそびや子ども文化などに興味をもつ。

- 3 - 2) 子どもや保護者を含めた現代的課題に関心を持ち、保育者としての社会的な役割を意識する。

DP 4 【態度】

- 4 - 1) 保育者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。

- 4 - 2) 自らの保育実践を振り返り、さらに質の高い保育を探求する力を有している。

DP 5 【技能・表現】

- 5 - 1) コミュニケーション能力やマナーを身につけ、他者と協働することができる。

- 5 - 2) 保育内容をふまえた基本的な表現技術を身につけている。

- 5 - 3) 子どもや保護者への適切なあそびや養護技術などを実施することができる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

保育科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

1. 保育科の教育課程は、保育の専門家を育成することを目的とし、短期大学士として必要な教養を身につける一般教育と保育者に必要な知識・技術を養うための専門教育で構成する。

2. 一般教育は、「キリスト教教育」、「初年次教育」、「女性と健康」、「基礎教養科目」、「アカデミックスキル」、「地域創生」、「キャリア形成支援」の科目群で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である「感恩奉仕」を理解させることができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外國語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的な姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。

3. 専門教育は、「保育の本質・目的に関する科目」、「保育の対象の理解に関する科目」、「保育の内容・方法に関する科目」、「保育の表現技術」および実習関連科目で構成する。「保育の本質・目的に関する科目」では、児童福祉や保育者としての本質に関する科目で構成している。「保育の対象の理解に関する科目」では、子どもの心身の発達に資する知識を身につける。「保育の内容・方法に関する科目」では、キリスト教保育を含めて保育内容について幅広い知識と実践を学ぶ。「保育の表現技術」に関する科目では、子どもの表現を広くとらえながら遊びを促していく技術の修得を目指している。各科目群は、保育者に必要な知識・技術を養成するため、段階的に進行する。さらに、実習関連科目では保育者として必要な総合的な力を養成する。

4. 保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を取得するために必要な科目を別途資格免許に係る必修科目として配置している。また、多様化する社会のニーズに対応するためにピアヘルパー資格、こども音楽療育士、認定ベビーシッター資格が取得できる選択科目を配置している。

授業科目	必修	選択	週授業時間数				到達目標	D P 1 - 1	D P 1 - 2	D P 2 - 1	D P 3 - 1	D P 3 - 2	D P 4 - 1	D P 4 - 2	D P 5 - 1	D P 5 - 2	D P 5 - 3												
			1年次		2年次																								
			前期	後期	前期	後期																							
教職に関する科目	保育の本質・目的に関する科目	保育者論	2	2			1. 倫理観に裏付けられた専門的な知識、技術、判断をもった保育者の専門性について理解することができる。 2. 保育士、幼稚園教諭の資格、専門職としての倫理性と責務の自覚が必要であることを理解することができる 3. さまざまな事例を通して、保育者に求められる専門性と省察について理解することができる。 4. 保育者として保護者や地域社会との協働、各専門機関との協働について、事例から理解することができる。 5. 自己変革に向けた保育士、幼稚園教諭として何を考え、何をすることが必要か、自分なりに説明できる。		◎					○															
			2	2			1. 保育の意義や社会的役割がわかり、現在の保育制度および将来構想に関する知識を持つ。 2. 多様な保育思想、保育目標、保育方法があることを知り、それぞれの特徴がわかる。 3. 確かな保育を作り出すための明確な視点を持ち、保育のあり方を考えることができる。		◎				○																
			2	2		2	1. 教育の意義、教育の目的、教育と児童福祉との関連性について理解できる。 2. 教育の思想と制度の歴史について学び、教育の基本原理について理解できる。 3. 日本と諸外国の教育制度および教育実践の多様な取り組みについて説明できる。 4. 幼児教育の目的について、教育基本法その他の教育関係法規を参考に説明できる。 5. 生涯学習社会における教育の課題について理解できる。		◎				○																
	専門教育科目	こども家庭福祉	2	2			1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と保育との関わりについて説明できる。 2. 子ども家庭福祉の理念とあゆみについて説明できる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について説明できる。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題、展望について説明できる。 5. 子ども家庭福祉の実践と従事者の役割、各領域における相談援助活動の役割を説明できる。		◎				○																
			2	2			1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史的変遷を説明できる。 2. 社会福祉と児童の権利、家庭支援との関連性について説明できる。 3. 社会福祉の制度、実施体系等について説明できる。 4. 社会福祉における相談援助、利用者の保護にかかる仕組みについて説明できる。 5. 社会福祉の動向と今後の課題について説明できる。		◎				○																
		社会的養護 I	2	2			1. 療養問題の現状や背景を説明できる。 2. 社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割を説明できる。 3. 児童福祉施設における養護の実際について説明できる。 4. 社会的養護を担う援助者としての保育士の役割や援助内容について説明できる。 5. 適切な子ども観、社会的養護観を持つことができる。		◎				○																
			2	2		2	1. 保育所の持つ「子育て支援」をの社会的役割の重要性を理解する。 2. 現代の家族を取り巻く社会環境から家庭生活、とくにその人間関係（夫婦・親子・きょううかい）の現状を理解することが「子育て支援」のために必要不可欠であることを理解させる。 3. 保育所以外の児童福祉施設の親における「子育て支援」とその連携について理解する。 4. 個別の家族のニーズに応じた多様な支援提供が必要であり種々の援助活動および関係機関との連携について理解させる。							○							○								
	保育の対象の理解に関する科目	教育相談とカウンセリング	2	2			1. 学校における教育相談の意義と課題を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。 2. 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 3. いいじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 4. 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。			○				○															
			2	2			1. 子どもの発達の概念及び教育における発達理解の意義を説明できる。 2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 3. 保育実践に関する発達理論等の心理学的知識を踏まえ、養護及び教育の一体性や発達を捉える視点について説明できる。 4. 子どもの学びの過程や特性について理解し、保育における人との相互のかかわりや体験、環境の意義を説明できる。		◎	○																			
		こどもの理解と援助	1	2			1. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて説明できる。 2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。 3. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解している。 4. 子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について説明できる。		○	○																			

授業科目			必修	選択	週授業時間数				到達目標				D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 5-1	D P 5-2	D P 5-3																
					1年次		2年次																															
					前期	後期	前期	後期																														
		子どもの保健	2		2				1. 我が国における保健行政の動向について説明できる。 2. 子どもの身体的発育、身体機能の発達が理解できる。 3. 子どもの病気（こころの問題も含む）と保育上の配慮点が理解できる 4. 子どもによく見られる感染症および園における感染症対策が理解できる 5. 保育における衛生管理、安全危機管理を理解、考察できる		◎	○																										
保育の対象の理解に関する科目	子どもの食と栄養	2			4	(4)			1. 子どもの食生活の特徴について説明できる。 2. 栄養に関する基礎的知識について説明できる。 —どのような食べ物をどれだけ、どのようにして食べたら望ましい食生活といえるのか説明できる—。 3. 子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活について理解できる ー保育者としての援助の役割について説明できるー。 4. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を伝統ある食文化・行事食や地域の特性を生かした食とのかかわりの中で理解できる。 5. 児童福祉施設における食生活等について把握できる。		◎														○													
	子ども家庭支援の心理学	2			2				1. 生涯発達に関する心理学の基本知識を習得し、乳幼児期の経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・仮定の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。			○	◎																									
専門教育科目	保育の計画と評価（教育課程含む）	2			2				1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と、評価について説明できる。 2. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を説明できる。 3. 保育課程・教育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に説明できる。 4. 短期の指導計画（週・日案）を作成することができる。 5. 部分指導案作成を模擬保育の演習を経て修正し、自己評価することができる。												○	◎																
	保育内容総論	1		2					1. 「保育内容総論」の意義と、乳幼児の保育内容が説明できる。 2. 子どもの発達の順序性と、適切な援助について説明できる。 3. グループで協力して、指導計画を作成し、模擬保育の発表ができる。		○										○	◎	○															
	保育内容「健康」	1	2						1. 幼児教育の目的と領域「健康」のねらいおよび内容について理解する。 2. 子どもの心と健康、それにかかわる保育者の役割を理解する。 3. 子どもの健康と遊びおよびその環境構成を理解する。 4. 生活習慣の形成・安全教育について理解する。		○										○	◎	○															
	保育内容「環境」	1		2					1. 保育における「環境」の意味を理解することができる。 2. 幼稚園・保育所における保育内容「環境」のねらいと内容を知り、理解することができる。 3. 子どもの環境へのかかわり方の発達の過程を理解し、援助の方法を考察することができる。 4. 飼育・栽培の方法について具体的に知り、実践する方法を身につけることができる。 5. 幼児期の環境教育の方法を知り、望ましい方法を探究することができる。 6. 園環境のあり方について理解し、環境構成の計画をすることができる。		○											○	◎	○														
	保育内容「言葉」	1		2					1. 乳幼児期の言葉の育ちの過程について理解することができる。 2. 子どもの言葉の育ちと保育について、様々な事例をもとに考察することができる。 3. 子どもの言葉の育ちを支える児童文化財について理解することができる。 4. 児童文化財を活用した実践研究をすることができる。 5. 保育内容「言葉」のねらいと内容について理解することができる。		○											○	◎	○														
	保育内容「表現（造形・絵画表現）」	1			2				1. 作品を試行錯誤しながら完成させる喜びを知る。 2. 実習を通して、様々な素材、道具に慣れ親しみ、豊かな表現が出来るようになる。 3. 保育者としての造形的な知識や技能、実践的な指導力が身につく。		○										○	◎	○															
	保育内容「表現（身体・音楽表現）」	1			2				1. 音楽を聴いて同時に反応し、基礎リズム、強弱、速度についてより深く理解する。 2. 様々な形で表現する喜びを味わう。 3. ダルクローズ・リトミックを理解し、表現する力を獲得する。		○										○	◎	○															
	保育内容「人間関係」	1			2				1. 幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「人間関係」の位置づけを、説明できる。 2. 園生活における「人とかかわる力」の育ち（社会性の発達）について、遊びとの関連で説明できる。 3. 園生活における子どもの集団形成やグループ活動について、説明できる。 4. 子どもの「人とかかわる力」を育てるための保育者の働きについて、説明できる。 5. 園生活におけるけんかや問題行動と保育者の対応について、説明できる。		○											○	◎	○														
	保育実践の理解と方法	1			2				1. 幼稚園教育の基本的な考え方、子どもの発達の援助を行うための指導法について理解することができる。 2. 幼稚園の保育内容について学び、実践することができる。 3. 幼児指導に向けて適切なねらいと内容、効果的な指導法、環境構成と教材の準備ができる。			○	◎								○																	
	保育メディア演習	1			2				1. 人間としての「育ち」全体の観点に立って、「メディア（媒介物）」の活用を考えることができる。 2. 保育者として必要な情報機器および教材の活用ができる。 3. これまで継承されてきた教育方法について理解できる。 4. 自らの保育において重要な方法について考える力を身につける。		○									○	◎																	
	特別支援教育論（障がい児保育含む）	1		2					1. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や歴史的変遷および仕組みを理解している。 2. 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 3. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障がいのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身につけている。 4. 特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解し、個々の保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。		○	○																										
	障がい児保育演習	1		2					1. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 2. 特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 3. 特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。			○													○													
	子育て支援	1		2					1. 子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について、具体的に理解する。 2. 子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解する。										○	○					○													
	乳児保育Ⅰ	2		2					1. 乳幼児の成長発達に即した保育の基本を理解する。 2. 乳児保育担当者としての基本的知識・技能の習得を図る。 3. 愛着形成期の子どもとのかかわりが人格形成の基礎となることを理解する。 4. かかわりの実際を学ぶ。		○	○																										
	乳児保育Ⅱ	1		2					1. 乳幼児の成長発達に即した保育の基本を理解する。 2. 乳児保育担当者としての基本的知識・技能の習得を図る。 3. 愛着形成期の子どもとのかかわりが人格形成の基礎となることを理解する。 4. かかわりの実際を学ぶ。			○														○												

授業科目	必修	選択	週授業時間数				到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 5-1	D P 5-2	D P 5-3												
			1年次		2年次																								
			前期	後期	前期	後期																							
子どもの健康と安全		1			2		1. 子どもの健康にかかわる保健活動の計画および評価ができる。 2. 子どもの養護技術が身につく。 3. 救命救急処置および応急処置法が身につく。 4. 保育現場における安全管理の具体的な方策を導き出すことができる。 5. 子どもの健康（心の問題も含む）を取り巻く関連機関との連携の在り方を考察できる。			○									◎										

授業科目	必修	選択	週授業時間数				到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 5-1	D P 5-2	D P 5-3												
			1年次		2年次																								
			前期	後期	前期	後期																							
保育の内容・方法に関する科目	社会的養護II	1			2		1. 社会的養護における子どもの権利擁護について理解できる。 2. 施設養護及び他の社会的養護の機能や役割について具体的に学び理解できる。 3. 個々の子どもに応じた自立支援計画・養護計画の作成の意味と留意点を理解できる。 4. 援助（基本的生活・親子関係調整・学校や地域との関係調整・自己実現等）の方法や技術、内容等を理解できる。 5. 援助者としての倫理・人間性と専門性の向上に努めることを具体的に学び理解できる。 6. 社会的養護を通して家庭支援・子ども家庭福祉や地域福祉についての理解や認識を深めることができる。																						
	キリスト教保育	2			2		1. キリスト教保育の歴史を知り、その思想について理解できる。 2. キリスト教保育における行事の概要を知り、その意義について理解できる。 3. キリスト教保育における礼拝・祈り・賛美・聖話・聖書の劇等について理解できる。 4. キリスト教保育の基本理念について理解できる。 5. キリスト教保育の根幹にある子ども観・人間観について考えることができる。	◎											○										
	こども音楽療育概論	2		2			1. 音楽療法に関する基本的考え方を理解できる。 2. 対象児の発達とそれに応じての音楽活動について理解できる。		◎									○	○										
	こども音楽療育演習	1			2		1. コミュニケーションを育てる療養プログラムを立案できる。 2. 障がい別、形態に応じて適切に工夫した楽器の使い方や弾き歌い、即興伴奏ができる。 3. 模擬セッションの実施とその評価ができる。											○	○										
	こども音楽療育実習	1			5日間		1. 実際に子ども達（障がいをもった子ども達）とのグループ体験や音楽活動へ参加や観察実習、体験実習を通して音楽を活動の実践方法を身につけることができる。										○	○											
専門教育科目	在宅保育	2			2		1. 在宅保育の意義や役割について知る。 2. 家庭訪問保育者として必要な知識・技能について理解できる。										○	○											
	音楽の基礎	1	2				1. 発声法・呼吸法を実践し、声をスムーズに出すことができる。 2. 音楽理論を学ぶことで、楽譜を読むことができる。 3. 正確な音程をとることができます。 4. 音楽における基本的な知識や技能を理解し、実践できる。	○										○											
	こどものうたあそび	1		2			1. 曲の中で音程を正しくとることができます。 2. 自ら曲想を考え、表現しながら歌唱することができます。 3. 保育現場における音楽的活動を展開するために必要な知識や技能を習得できる。										○												
	こどものためのピアノI	1	2				1. 手の構えや運指法などの基本を習得する。 2. 「バイエルピアノ教則本」の第100番程度の曲やマーチの演奏が出来るようになる。										○												
	こどものためのピアノII	1		2			1. 『幼児の音楽教育』と『幼児さんびか』を教材として演奏技術を培い、それらの弾き語りができるようになる。 2. 『バイエルピアノ教則本』の第100番程度の曲やマーチの演奏が出来るようになる。										○												
	こどものうたと伴奏法I	1			2		1. 『幼児の音楽教育』と『幼児さんびか』の約30曲の弾き語りが出来るようになる。 2. 『バイエルピアノ教則本』の第100番程度の曲やマーチの演奏が出来るようになる。										○												
	こどものうたと伴奏法II	1			2		1. 主に『幼児の音楽教育』と『幼児さんびか』を教材として演奏技術を培い、それらの弾き語りが出来るようになる。										○												
	こどもの造形あそび	1		2			1. 様々な素材、道具に慣れ親しみ、豊かな表現ができる。 2. 保育者としての総合的な知識や技能、実践的な指導力を身につけることができる。										○												
	こどもの運動あそび	1	2				1. 幼児体育の果たしている意義と役割を理解できる。 2. 子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達について理解できる。 3. 幼児の体育指導に必要な技術・技能について理解できる。											○											
	こどもの生活とあそび	1			2		1. 生活科の教科目標、評価の観点及びその趣旨を説明できる。 2. 生活科の学習内容と具体的な活動について知り、遊びの事例や教材について説明できる。 3. 幼稚園・保育所(園)と、小学校との連携について説明できる。			○									○										
	こどもの文学と物語	1			2		1. 子どもの精神世界を見つめ、子どもに関する日常の疑問にも答えることができる。 2. 感じたこと、考えたことなどイメージしたことを自分らしいやり方で表現することができる。	○	○																				
	こどもの発達理解とあそび	1			2		1. 乳幼児期の心身の発達と遊びとのかかわりについて説明できる。 2. 子どもの遊びや活動の展開を予想し、保育者の援助について記述できる。 3. 発達にそくした遊びのレパートリーを増やし、保育現場で活用できる。			○	○								○										
	こども文化	1		2			1. 子どもの成長と文化のかかわりについて説明できる。 2. さまざまな子どもの文化財についての基本を説明できる。 3. 子どもを取り巻く文化に関心を持ち、主体的に課題発表に取り組む。			○									○										
	器楽アンサンブル	1			2		1. 簡易打楽器の取扱い・奏法を理解できる。 2. リズム譜の理解と読み方を向上させリズム譜の作成をすることができる。 3. 様々な楽器を使ってアンサンブルすることができる。 4. 子ども達への器楽アンサンブルの指導ができる基本的な技術を身につけることができる。											○											
	保育総合表現	2			4		1. 音楽表現、身体表現、言語表現、造形表現を統合した表現活動を体験できる。 2. 演技力、歌唱力、創作力を磨き、子どもに相応しい表現力を体得できる。 3. チームワーク力、コミュニケーション力を養い、共同作業において自らの関わり方を検証できる。									○	○	○											

授業科目			必修	選択	週授業時間数				到達目標				D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 5-1	D P 5-2	D P 5-3																
					1年次		2年次																															
					前期	後期	前期	後期																														
総合演習	こども学基礎演習	2			2	2			1. 保育現場の現状を知り、保育者としての自分の見通しを持つことができる。 2. 保育者として、社会人として必要な人間関係形成・社会形成能力を備える。 3. 自己の役割を見出し、様々な他者を認めつつ協働していく力を持つことができる。 4. 保育者として、様々な課題を発見し適切な計画を立ててその課題を処置し解決できる力を身につける。												○	○	○	○														
	こども学特別演習	2					2	2	1. 主体的に研究課題を設定し、実践や演習方法を考え、実行することができる。 2. 研究活動やその成果に対して、適切な自己評価および相互評価ができる。 3. ゼミ内外の学生と協力して、研究報告発表会等を企画運営することができる。											○	○	○	○															
	◇ 保育・教職実践演習(幼稚園)	2					2		1. 保育者としての使命感を持ち、子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を身につける。 2. 同僚保育者や保護者、地域の専門機関との関係を築きながら、保育実践に取り組むことができる。 3. 子ども理解のための観察や記録に基づき、子どもの発達や心身の状況に応じた保育をする力を身につける。 4. 保育に関する現代的課題について、現状分析・考察・検討ができる。 5. 保育現場での問題解決のための対応・判断力を身につける。 6. 保育者として必要な知識・技能が修得できたかどうか自己確認し、自己課題を明確にできる。											○	○	○	○	○	○	○												
教育実習	教育実習指導	1		← →					1. 2年間の実習計画全体を知り、各期（教育実習Ⅰ（1年後期・2年前期）、教育実習Ⅱ（2年後期））の教育実習の意義・目的・内容について理解できる。 2. 実習園でのオリエンテーションの受け方や実習の基本的心得について理解し、実践できる。 3. 実習の際に必要な、観察と記録の方法、教材研究や指導案作成方法などを中心に、これまで各講義や演習で学んだ知識と技術を総合的に活用しながら実習に取り組む準備ができる。 4. 実習後には、グループ別話合いや個別面談および報告会を通して自己課題が明確にできる。										○	○	○	○	○	○	○	○												
	教育実習Ⅰ	1	← 1週 →						1. 実習生としての基本的态度を身につけることができる。 2. キリスト教保育を体験的に理解できる。 3. 子どもと一緒に生活し、幼児の発達の姿を理解することができる。 4. 幼稚園教育の実際が概ね理解できる。 5. 観察の方法と記録の書き方が理解できる。 6. 教材研究の方法について、実習体験を通して理解できる。										○	○	○	○	○	○	○	○												
	教育実習Ⅱ	1			1週				1. キリスト教保育を体験的に理解できる。 2. 幼稚園教育の実際が理解できる。 3. 幼児理解の方法について、実習体験を通して考えることができる。 4. 実習日誌の作成ができる。 5. 教材研究の方法が実習体験を通して理解できる。									○	○	○	○	○	○	○	○													
専門教育実習	教育実習Ⅲ	2				2週			1. 実習園において観察実習に基づいて、参加実習を担当することができる。 2. 指導案を作成し、部分実習や一日実習を担当することができる。 3. 実習園における各種の行事や幼稚園教諭の職務を体験的に理解できる。 4. 実習園における毎日の保育について記録にまとめ、考察することができる。 5. 実習体験をもとに総合的考察を行ない、自らの今後の課題をまとめることができる。										○	○	○	○	○	○	○	○												
教育科目	保育実習指導Ⅰ	2	2	2					1. 保育実習の意義・目的について説明できる。 2. 保育実習に対する心構えをもち、実習課題を明確化できる。 3. 実習記録の意義・方法を理解し、実際に記録できる。 4. 実習施設の概要について説明できる。 5. 実習施設における担当保育士の指導を通して、保育内容や子どもへの理解を深める。 6. 保育実習に関する事務手続きについて把握し、適切に処理できる。 7. 実習の事後指導及び実習施設の評価をもとに、自己評価を行い、新たな学習目標や課題を明確にする。										○	○	○	○	○	○	○	○												
	保育実習指導Ⅱ	1		1	1				1. 保育士としての職業倫理を説明できる。 2. 子どもの家族とのコミュニケーションの取り方や、地域社会との連携方法について説明できる。 3. 個々の子どもの個人差やニーズを把握し、子どもの最善の利益に配慮した関わりについて説明できる。 4. 保育課程や指導計画について理解し、立案できる。 5. 保育実習に関する事務手続きについて把握し、適切に処理できる。 6. 保育所保育士に求められる資質、能力、技術を理解し、自分の課題や今後の方針性を明確化できる。									○	○	○	○	○	○	○	○													
	保育実習指導Ⅲ	1		1	1				1. 施設実習Ⅱにおける実習の意義・目的・内容について説明できる。 2. 施設実習Ⅱに対する心構えを持ち、実習課題を明確にできる。 3. 児童福祉施設における保育士の役割について説明できる。 4. 施設実習Ⅱにおいて求められる基本的な養護・療育技術を実践することができる。 5. 実習後の振り返りから、施設保育士の役割の観点から自己課題を明確にできる。									○	○	○	○	○	○	○	○													
保育実習	保育所実習Ⅰ	2			10日				1. 実習を行う保育所の役割や機能について説明できる。 2. 実習を行う保育所の1日の流れを理解し、主体的に保育に参加できる。 3. 乳幼児とのかかわりを通して、子どもの発達について説明できる。 4. 保育課程・指導計画について説明できる。 5. 実習を通して保育技術を習得し、実践につなげることができる。 6. 子どもの最善の利益を具体化するための取り組みについて説明できる。 7. 実習を通して自己の課題を明確にできる。									○	○	○	○	○	○	○	○													
	保育所実習Ⅱ	2			10日				1. 保育全般に参加し、習得した保育技術を実践に活かすことができる。 2. 乳幼児の個人差について理解し、子どもへの対応方法を実践できる。 3. 指導計画を立案し、それを実践できる。 4. 様々な保育ニーズについて理解し、保護者や地域社会との連携を説明できる。 5. 子どもの最善の利益への配慮を通して、保育士に求められる資質について説明できる。 6. 実習を通して自己の課題を明確に示すことができる。									○	○	○	○	○	○	○	○													
	施設実習Ⅰ	2			10日				児童福祉施設の役割と、そこで生活している子どもの専門職員の役割、他機関との連携、地域との連携などについて理解をする。 1. 子どもとともに生活しながら、子どもの観察をし、ニーズを見出すことができる。 2. 養護・療育活動に参加し、適切な処遇のあり方について考えることができる。 3. 養護・療育計画を実施することができる。 4. 保育士としての倫理観、子どもの最善の利益を保障するための具体的対策など、保育士の役割について説明できる。 5. 安全及び疾病予防への配慮について考え、実践できる。 6. 職員のそれぞれの役割とチームワークについて理解した上で、自分の役割を遂行できる。 7. 地域の中での児童福祉施設の役割について説明できる。									○	○	○	○	○	○	○	○	○												
	施設実習Ⅱ	2			10日				1. 対象児・者についてのアセスメントの意味を説明できる。 2. 養護計画・療育計画の作成を試みる。 3. 保育士の専門性について十分理解し説明できる。									○	○	○	○	○	○	○	○													